

丙覽

管理局長

監理課長

事務官

情第九八七號

昭和十八年六月二日

臺灣總督官房情報課長代理 根 井



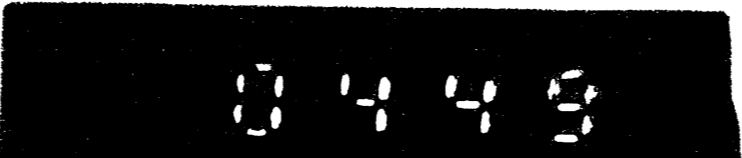
內務省管理局長殿

「新選股」送付ノ件

皇民奉公會發行ニ係ル「新選股」六月二日「五部」送付参考  
右及送付候也



四



昭和十七年十月十五日第三種郵便物認可・昭和十八年六月一日発行・毎月一回発行・第二卷第六号

新

建

設



15  
會公奉民皇

昭和十八年六月一日  
附誌第八号

REEL No. A-0509

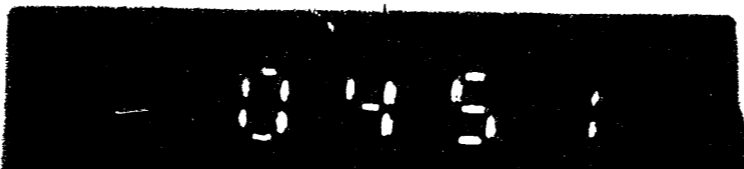
0450

アジア歴史資料センター



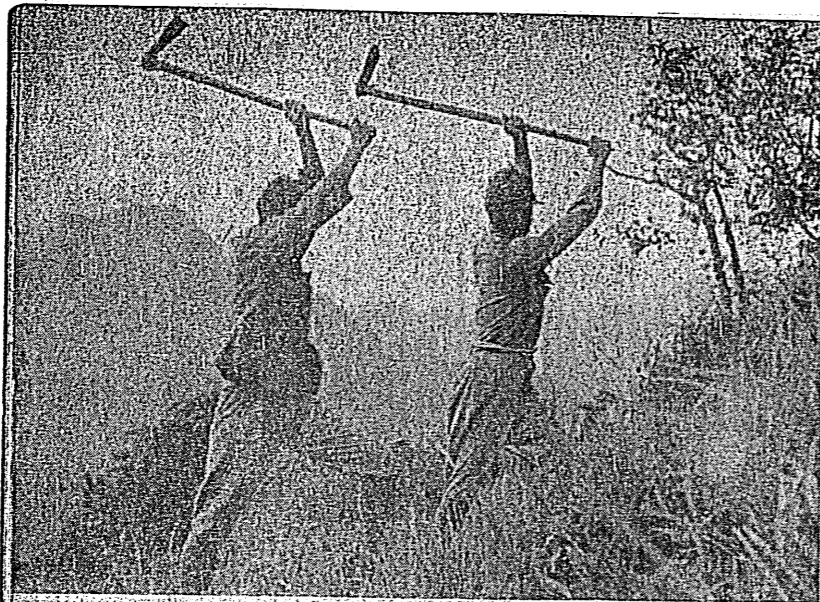
軍艦旗ははためく  
 黒潮は僕らを招く  
 遂に來た歡喜の日  
 行かう『海軍志願兵』

皇民奉公會

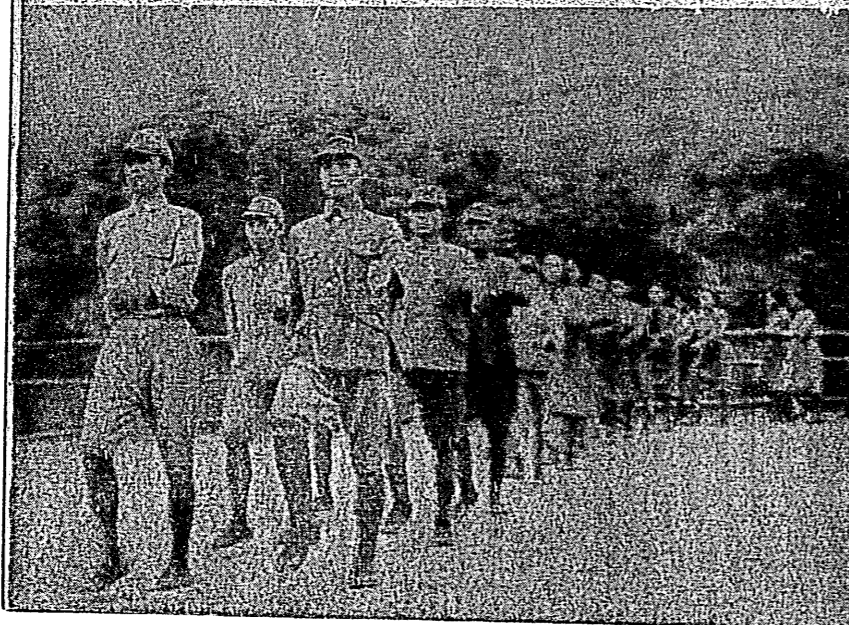




# 鍊成する高砂族青年

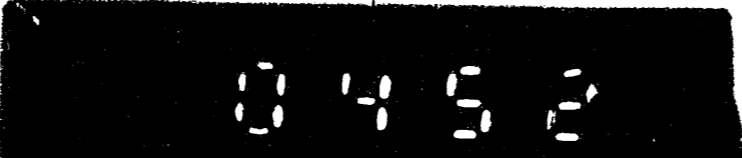


然し彼らに於いて打たれるのは、彼らの燃え上る国民意識の影射である。国民としての彼らの敢闘精神である。素朴、純情、勇敢と言ふ言葉が力強い。彼らは火の玉となつて皇民たるん鍊成に邁進してゐる。早朝からの男女青年團の教練は年中休みなく行はれ、亦おらは間はん気道は何時でも出来てゐる。今彼らの男は前線に義勇隊として勇名を馳せ、女は銃後増進に死物狂ひである。規律ある統制と團結の下、高砂族青年は前線後方共にまっしぐらに、希望の明日へ闘つてゐる。



(左) 右上と左下早朝訓練の男女青年團 右下は女子青年團の水田除草 左上は男子青年團の増進取組の姿

始政四十八周年の寧ろ、進歩発展の奇異の一つ、それは高砂族の進の姿であり、彼らの躍進の姿、鍊成の姿を見て日本は何よりも力強く、より勇を得た喜びを押しきれない感動に打たれるであらう。彼らの衣食住の生活は簡素と云ふ言葉を病的に表現する日本財の姿である。彼らの生活の内地化はその踏正しく増された。





# 新建設 目次 (六月號)

筆者の郷里は、中部日本の山奥の一農村であるが、我々の祖先は、この一農村だけで結構、国民生活が立ちゆくやうに、今日の所謂「國防國家」態勢をキチンと整へてゐた。

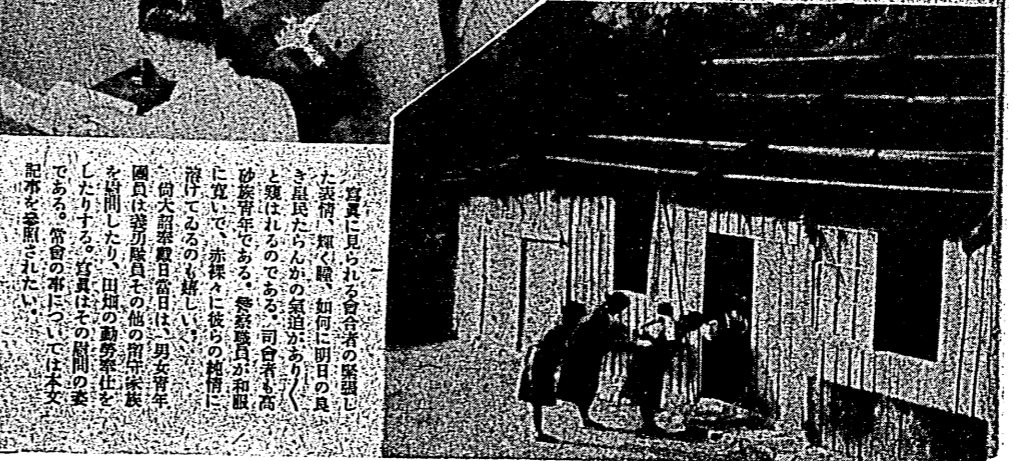
## 山村の國防態勢

本田が少いので、畑には大抵、小麦や蕎麥などを多く播き、更に玉蜀黍を澤山に作つて山村の食糧問題を解決してゐた。それで村人の三厘の食事は、朝は玉蜀黍を粉にして作つた饅頭又はその類のもの、昼は米少しに麦の多い麦めし、夜は大豆、若しくは豆、芋、そば等を煮た残り、麦めし等で過し、白い御飯は、客の来た時とか、冠婚葬祭の時

これは明治の後半頃のこと。その子供時代の印象を懐いて二十五年振りに郷里へ歸つてみると、實に大變な變化だ。村人の着物は皆洋服も、穿いてゐるものも昔の草鞋の代りに足袋、曰く何、曰く何。

つたのである。

これは明治の後半頃のこと。その子供時代の印象を懐いて二十五年振りに郷里へ歸つてみると、實に大變な變化だ。村人の着物は皆洋服も、穿いてゐるものも昔の草鞋の代りに足袋、曰く何、曰く何。



ウライ社の常會

茨城州文部下の高砂ウライ社では毎月八日大船奉獻日の常會、組合の常會を開く。高砂族の常會としては他に比見ないものであらうと發見職員は自慢してゐたが、それは現に角、彼等の常會の愛國氣は他に見られぬ。素朴な活動なものであつた。

寫真に見られる會合の盛況は、た表情、輝く眼、如何に明日の良き國民たらんかの氣迫が、ありありと窺はれるのである。司會も高砂族青年である。發見職員が和服に寛いで、赤練に彼らの純情に附けてゐるのも嬉しい。

向大船奉獻日は、男女青年團員は發見職員その他の習俗を質問したり、田畑の勤勞状況をしたりする。寫真はその間の姿である。常會の事については本文記事を参照されたい。

新建設 目次 (六月號)

- 座談會 「臺灣一家で戦ふ」 司會鈴木英夫氏、二
- 大敵の精神 三
- 臺灣青年團 四
- 軍艦旗の下に 五
- 本島婦人にこの決意 六
- 報地ウライ社の常會 七
- 悲の經濟學 八
- 防空讀本 九
- 小説青年の門 立石鐵臣氏、一〇
- 結婚の相手は? 一一
- 電波は戦ふ 一二
- 古事記物語の 喜久元八郎 一三
- 横書きの温泉(今月の話題) 一四
- 職女性群 一五
- 軍都高維の 大竹 文輔 一六
- 新建設回覧板 一七
- 奉公手帖 一八
- 赤字 大窪 六郎 一九
- 家庭の頁 二〇
- 奉公川柳 櫻越正光選、二一

# 臺灣一家の二三



鈴木秀夫氏

【大澤宣傳部長】一寸御挨拶申上げます。本日は「臺灣一家」の皆様が臺北を中心に相違ない所から迄お出

かけになりまして之から「臺灣一家」が「戦ふ臺灣」をお話し下さる「戦ふ臺灣」の座談會をお開き願ひ度いと思ひます。御承知の通り来る六月十七日は始政四十八回記念日に當りまして、領臺四十九年の間に臺灣がどの程度進んで来て居るか、臺灣一家はどんな一家に成長して来

たかと云ふ事を、皆様に依り判りとお話し願ひたいと思ひます。現に我が國は米英を相手に大きな戦ひをして居るのであります。この「戦ふ日本」の中の「戦ふ臺灣」が臺灣一家を中心如何なる状況の下に戦つて居るか、之等の實情を一つ懸念なくお話し願ひたいと思ひます。その爲に本日は内地人の方、本島の方、高砂族の方、内地人の方は夫々二世の方或は少くとも臺灣に相當長い間居られて、臺灣を故郷とさ

れて居る様な方々でありまして。又お集りの本島人の方の中にはマライ方面に實際従軍されて、生命を賭して戦つて来られた方もあります。又臺灣をいつかり護り続けて居られる方々も在るのであります。従つてこの「臺灣一家」のお話は極めて興味あるお話にならうかと、實は大なる期待をかけた居る次第であります。尙この座談會の司會者と致しまして鈴木さんにお願ひ申上げたと思ひます。鈴木さんは御承知の通り前新竹

州の知事であられました。又今同島民奉公會の傘下に入りました臺灣青少年團の副團長をして居るのである方でありまして、青少年の氣持を良く汲み取つてをられます。何卒想う云ふ時節柄でありますので、何れも一つ赤心を披瀝してお話を願ひたい。このお話は單に此の場だけのお話ではないのであります。此の座談會を通じて臺灣の六百萬にお話をされる、さう云ふお心持でお話を進めて頂き度いと想ひ存じます。ではよろしくお願ひ致します。

【司會者鈴木秀夫氏】只今大澤さんから御紹介になりました鈴木さんでありまして。只今お話もありました様に現在我が國は、大きな理想の下に大東亞戦争を戦つて居ります。大東亞諸地域に於て、夫々日本を盟主と仰いで、此處に共榮圈を建設しようと思ふので、皆が競つて居る状況なのであ



りです。臺灣も既に皇化に浴する事半世紀に近からんとして居るのであります。この我が臺灣は内地人、本島人、高砂族お互ひに渾然一體となつて臺灣一家を形造つて、今大事な役目を果すべく戦つて居るのであります。本日此處には夫々三兄弟の方々が集りになり、臺灣一家としていつかり手を執りあつて戦ひつゝあるその實相を皆様の口を通じて御紹介したいと云ふ

のであります。最初に張さん、皮切りに本島の方々が、この重大なる時局の下でどんな心構へで戦ひつゝあるか、その状況に就いてお話を願へませんか。

【張文瑗氏】大東亞戦争が勃發して以來臺灣が非常に明朗になつたと云ふ事は、之は誰でもお感じにならうと思ひます。兎に角あの支那事變迄はですね、それ迄の内地人でも本島人も、日常の生活において、語り独自の立場で物を見る氣持に捉はれて居たのです。支那事變が勃發しても、それでも尙矢張り、所謂戦争に對する認識が足りなかつたと同時に、英國や米國と云ふ大きな國が未だ東洋にのさばつて居りましたので、此の戦争は結局塵うなるかと云ふ見透しは判らなかつたのです。その爲か戦

争に對する見方が非常に暗い氣持でした。大東亞戦争が勃發して米英を本當に想像もつかな様な急速な早さで東洋から追ひ出したと云ふ様な事に對して、所謂本島の青年全體が非常に自分の向ふべき道に更にはつきりと認識する

ことが出来たのであります。そして一段と明朗になつたと同時に、獨自な立場で物を見ると云ふ譯には行かなかつた。自分は日本の臣民として自分が塵う云

（左）大澤宣傳部長、（右）鈴木秀夫、（中）野村、（右）和野、（左）和野の諸氏

- 出席者**（順不同）
- （司會）臺灣青少年團團長 鈴木 秀夫氏
  - 臺北地方法院判官 井上 正弘氏
  - 外務部管理課 速水 國彦氏
  - 臺北市奉公社青年團幹事 鈴木 哲次氏
  - 島民奉公會臺北支部委員 張 文 瑗 氏
  - 小説家 黃 啓 瑞 氏
  - 辯護士、太平町分區長 横田 實 氏
  - 臺灣從軍紀念會役員、マライ線に從軍（勳章） 鳥宿 秀男氏
  - 臺北醫學專門學校學生（同里山出身） 野村 真雄氏
  - 奉公會南工業職工訓練所 生（常務） 秋野 志朗氏
  - 臺北州ウライ社青年團員 安間 節子氏
  - 臺北放送局教養係 三松久美子氏
  - 臺北桔梗俱樂部員 吳氏 絹々氏
  - 文教局社會課桔梗俱樂部員 和野 春子氏
  - 臺北州ウライ社青年團員、高砂義勇隊和野氏夫人
  - 本誌編輯 大澤宣傳部長その他
- 時 五月九日 處 臺北鐵道ホテル





戦が勃發して以來の志願兵、之がもう九きり心構が違つてゐるのです。軍夫志願だけでは戦争に對する感じがまだ、身近に迫つて來なかつた。所が戦争が一年々々と重大化する中に自分は軍人になつて戦はなければならぬと云ふ氣持に驅られ、そして日本人である云ふ意識が急にはつきりして來たのではなからぬ。私は感じています。

〔司會者〕さうですね。今度の戦争は青年に大きな希望を與へたと同時に、臺灣の皆様の氣持を明るくして居ります。

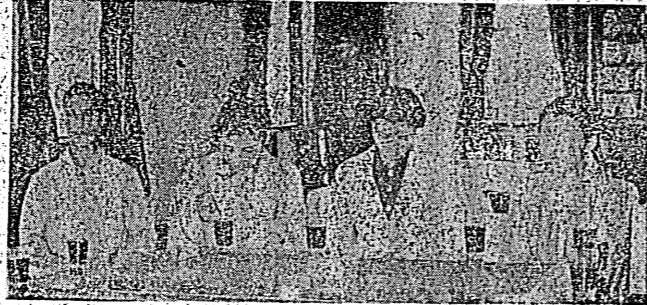
〔黃瑞瑞氏〕戦争の勃發に依つて臺灣の青年が非常に希望を持つ様になつた一例を申し上げますが、大東亞戦争許りでなく、支那事變が勃發して戦果が擴大するにつれて、臺灣の青年が急に希望を持ち得る様になつた事を私は知つて居ります。今の興南新聞、以前は臺灣新民報と申して居りましたが、その當時漢文欄がありました。當時本島の知識層は盛んに漢文で色々のものを書き、當時の風潮は漢文は臺灣では無くても良いと云ふ状態にあつたのですが、盛んに漢文の知識で色々の議論を新聞紙上で戦はして居りました。その中には國家思想に背反するものも見られた人もありました。支那事變が擴大するや、豁然として國家意識にめざめ、總て奮起が必要になつた時に、此の連中の中には

支那の日系新聞社に奉職して、夫々學んだ漢文で盛んに日本の國策を鼓吹した者が大勢あります。さうして何れも眞剣になつて働いてる中に、自分の故郷臺灣に一時歸りたいと言つても、軍の報道部、宣傳班の方が、今行かれてはたまらんから今暫く頑張つてくれと言はれる程に目覺しく活躍して居ります。戦争が始まつて今迄の暗い氣分が打開され、希望の持てなかつた人間が等しく希望を持つて國家の爲に一生懸命にやり、さう云ふ知識の有る人間は軍報道部に就つて應募すると云つた状態でありました。

〔張文環氏〕例へば、云ふ事も申されるかと思ひます。今迄は米英が非常に科學的方面に於きましては、優れてゐると思はれてゐた。それが大東亞戦争が始まつてから、我々は必ず勝つと云ふ自信が持てた。と云ふのは科學の力では戦争に勝つ事は出來ない。それは飛行機を操縦する者は人間である。然しその人間に精神と云ふものが無ければ駄目である。人間の精神力と機械とが融合合つて初めて心が出来る譯で、とにかく米英に對する見方が、がらりと變つた。プリンス・オブ・ウェールズに對する爆撃は、大東亞戦争の大局から見ればほんの小部分には違ひないが、それを契機としたと云ふことは、一面日本人としての覺り、あるいは堅持と云ふものが非常に昂められたと感じます。

**高砂族も起ち上つた**

〔司會者〕時局に對する認識と云ふものは年を取つてゐるよりも青年の人の方が感受性も深いし、理解も早いのであります。今私共何と云ひますか、昔は年を取つた人達に青年が導かれた、教へられたのであ



〔司會者〕 右頁三人目より張、横田、黃の諸氏、左頁より三松、吳、安間、野村の諸氏

りませんが、今は若い者が寧ろ逆に親なり、祖父なりを引張つて居る感じがします。青年が非常に目覺めて奮然と起上つて居る姿が至る所に見られますが、高砂族の人達も同じ様な状況だと思ふのであります。秋野さん如何ですか？

〔秋野君〕只今お話のあつた通りであります。高砂族は本島人の方々が軍屬とか、軍夫、奉公園等に出て非常に兵隊さんに負けない様に働いて居られる事を聞きまして、高砂族青年も自分達をどうして安閑として居られようか。私共も戦地にやつて貰つて大いに國家の爲に盡さなければならぬと云ふので、皆軍夫志願をやりましたが、その望みも叶へられなかつたのであります。然し、高砂族の熱意はその儘に止まつて居たのではなく、何時か必ず戦地に出られる日を皆待ち構へて居つたのであります。あの一昨年の十二月八日、米英撃滅の火蓋を切つて日本が立ち上つたのと同じ時に、我が高砂族も今度こそはと思つて皆志願したのであります。高砂族青年は、戦争に参加出来ることは日本男子の本懐である。我々も日本男子である。之こそ日本男子の本懐であり、譽れであるとな固い決意をほのめかして居りました。その望みが叫べられて、義勇隊とか義務奉公隊とか本島人の方々と同じ様に現地に派遣される様になつたのであります。即ち今の青年は皆が男子は戦地に出る、さうして戦後の者は一生懸命に、御國の爲に働かねばならぬ。さうして心を一つにして必ず米英を撃ち倒さなければいけないと云ふ決心を持つて居ります。

〔島宿君〕只今秋野さんがおつちやつた通りであります。私は山で生れながら、中學校へ通學した關係から山の事には餘り詳しくありません。時たま歸る度に青年とか或はその他の人と會ふ度に、今の秋野さんの言はれました様な感じを秘々と味はされるのであります。私共高砂族も國の爲にお役に立つ、之は國民として無上の榮譽であると思ひます。之はひたすら領土四十九年の間の臺灣統治の努力の結晶であり、またそれを思ひ常に感謝して居ります。後日私共も山に歸る様になり、その様な晩には、一身を掛けて

御返返しするのみであります。

**有難い臺灣、共榮園の長い見本**

〔司會者〕横田君はマラI 戦略の時に、第一線に在つて死生の間を立派に潜り抜けて來られたのですが、色々戦争の生々しい體驗から日本人としての光榮、感激と云ふ様なものを特に身近に感じて歸られたと思ひます。

〔横田氏〕私、歸りましたからには更に強固な「臺灣一家」を建設することが急務だと痛感して居ります。さうして内地人、本島人、高砂族がお互ひに手を取り合つて聖恩に報い奉るべく邁進すべき時だと私は感じて居ります。ちよいと私に近い山地などへ出かけることがありますが、高砂族の人々は通譯なくして國語ですら、面白く話せる。然し本島人の部落に行





大祓の精神

神の魂に還る

六月 三十日は、大祓の行事が行はれます。大祓は大きな祓で、国民全體を祓ふことでもあります。

今日大祓の行事については、之れを知る人少なく、その精神に於いては殆んど顧られておられません。また一部の人は、大祓の間で、個人的に祓や禊を行つて、それで日本精神を體得したとか、成就したとか申してをりますが、その精神をけき進へてゐるものが非常に多いのであります。

大 拔 六月三十日

は當然生まれながら神性を有するものであります。その神性の顯れは諸國神社の祭神であります。一般國民でも直ちに神になります。但しそれはお國の爲、大君の爲務じたからであります。即ち宇宙の大本體、大根本である天御中主神の恩召し、御意志に應じてこそ神となるのであります。天皇の詔の任々に奉ずればこそ神となるのであります。そこで我々國民が神であることを理解されての上、何故大祓が必要であるかを申し上げます。人間の神性を直用または直覺なほびといひます。これに對して外から侵入する色欲の誘惑、私達の五官を覆ひ、分裂させて、身、人格の統一を失はせて、罪穢

でなく、それと同時に日本精神を取り入れながら臺灣の氣候風土に適した、合理的な衣食住生活の設計といふものを考へてをります。皆様の御指導と御援助を仰ぎながら是非を考へてみたいと思つてをります。さう云つた生活の問題からして、六百萬國民は皇民奉公意識に燃え、理想的な共榮團の雛型を臺灣で作つてゆきたいと、私達青年は念願してをります。

を結果させるものを禊祓といはれ、禊祓といひます。直用と云ひ、禊祓と云ひ、これは禊祓であります。善き禊、悪しき禊と謂はれるのであります。罪とか穢と申しますのは、一般に罪と謂はれるもの他に、病氣とか、作物に對する災害などもあります。不淨なこともその中に含まれます。

大 祓 と云ふ行事の必要なることは此處から來るものであります。即ち罪穢の目に見えない原因は禊祓です。此の罪穢の禊祓を拂ふことが祓ひであり、す。はらひはまた、罪穢を内から根本直用を現り、罪穢の禊祓を押し出して拂ふことです。要は根本直用を現し、神性を發露する、人が神と同じになることであり、神と神に迎ひ、宇宙の大根本神に迎ひ、か、と云ふことでもあります。

ものほびにつけなさいと云ふことと、或は云ひ、或は云ひ、禊祓を最も力強く説く文章であります。茲では悉く述べられませんが、私達の罪穢を通用の酒の如く流し、大海に開き、疾風の如くそれを沖に吹き流し、行方知れず、に霧散させる状態が、禊祓に應ずるべき状態を拂ひます。三十一頁に續く

戦ふ銃後の高砂族 「野村君」 高砂族及び日本人青年の奮起は秋野さんのおつしやつた通りでありますが、本島人及高砂族が内地化してゐる事ですが、恥づかしい事ですが、アミ族にはまだ遺憾の點が餘りなく、國語はまだ上手だとは云へません。國語常用が不徹底であります。國民學校の先生や警察官の方の指導に依り現在、部落に講習所があり、講習所として、在郷勸行青年隊員ですが、自發的にやつて居ります。さうして講習所に入學してゐる者は三十五歳乃至四十五歳位のもので、三十五歳以下の若い者は國民學校の四年制の學校を卒業

會の姿でありましたが、三兄弟の生活がそれな、積極的に歩み寄ると云ふことは、これは大切なことであります。これをお互ひつまつない秘密や遠慮を捨て、目隠しをすべき所にはしなければなりません。此の際積極的に目隠しが無い事が臺灣一家のために良いのだ、資材の無いのが寧ろ良いのだと云ふ風に感じました。之は昨晚の事ですけれども、

設して下さつて、之は誠に有難いと常々感じて居ります。我々が日本青年として、此の大東亞共榮圏建設戦士として立つ事は、我々帝國青年が、尊い責任を負うてゐるものと思ふのであります。自分は指南訓練所生として只今入所して居ります。卒業の時は帝國南進國策の遂行の拓士として、大いに奮闘する覚悟であります。それは健全なる精神と、體力とを錬成して、大日本帝國の意氣を發揮して建設の戦に立つ覚悟であります。

【司會者】和田さんの御主人は第二回の義勇隊員として前線においでになつたさうですね。高砂族の戦後の働きぶり、習俗の改善、か國語の常用であるとか、其の他増産とか色々勵んで居られますが、その模様を聞かして頂けませんか？

【和田氏】大東亞戦争が始まつてからの高砂族青年女子の様子を二、三話したいと思ひます。私共高砂族女子も此の大東亞戦争が始まつて以來洵に身も心も張り切つて、此の戦争に勝抜いて行かなければならぬと思ふのであります。自分達は指南訓練所生として居ります。若人達や子供達の居ない人は皆特志者として居ります。山に残つて居る女性もお國の爲強い子を育てる様に努力してをります。農家のことでありますから食糧の増産にも大いに勵んで居るのであります。その増産に依つて貯蓄をし、戦費の負擔は進んでやりたいと思ひます。二三月前ウライ社の岡山警備隊のお話に依り、高砂族達は決して佛蘭西の佛蘭西をしてはいけません。佛蘭西は子供を作る事を嫌つたから遂に戦争に負けたと云ふ事でしたが、私共戦後に残る女性も子供を良く育て、立派な

陛下の赤子として、皇軍の一員に加へて頂きたいと思ひます。前線に出ました夫には少しも後の心配を掛けない様に私共高砂族も日本人的精神を尊んで、此の大東亞戦争を何處迄も勝抜いて行くため、立派に戦後を守つてゆきたいと思ひ居ります。

【吳氏精々氏】桔梗俱樂部が内寮人を一緒にされたことは本當に喜ばしい事と思ひます。今後は大いに此の俱樂部を育て、行き度いと思ひます。悠々云ふ機会を作る事が一番良い事だと思ひます。そしてお互ひに近寄つて心の距りを取除いて頂きたいと思ひます。

【安間氏】私勉強が足りませんが、大變良いお話を伺はして頂きました。大變嬉しく存じて居ります。本島の皆様方が先程申されました通り、私は協力と云ふ事が今の我々の生活に一番大切であると思つて居ります。内地人の生活と申しますものは禮儀作法とか

或は風習にしても、今の戦時生活に慣れぬ所が多う御座います。本島人の年を取つた方は内地人が、切替へた生活に慣れにくいと云ふよりも、もつと慣れにくい立場に在り乍ら、よくも此處迄来たものと頭が下る思ひがします。その例として六十幾つのおばあさんだと思ひますが、公債の振當てを買つて頂きにあらう人が上つたさうですが、言葉が判らないので、手を振つて断つたさうです。それで公債を買つて頂く様にと上つた人は、こちらの意味が徹底しなかつたものと思つて、區長の事務所に行きまして、今愴々言つて公債を買ふ様に奨めたが断はられたと云ふ事を申したさうです。所がその夕方その事務所へ来て、五圓札をお婆さんが来て、五圓札を出して公債を買はして呉れと言ふので、區長さんは、そんなに無理をして買はな

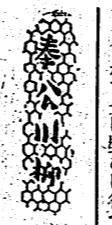
【司會者】和田さんの御主人は第二回の義勇隊員として前線においでになつたさうですね。高砂族の戦後の働きぶり、習俗の改善、か國語の常用であるとか、其の他増産とか色々勵んで居られますが、その模様を聞かして頂けませんか？

【和田氏】大東亞戦争が始まつてからの高砂族青年女子の様子を二、三話したいと思ひます。私共高砂族女子も此の大東亞戦争が始まつて以來洵に身も心も張り切つて、此の戦争に勝抜いて行かなければならぬと思ふのであります。自分達は指南訓練所生として居ります。若人達や子供達の居ない人は皆特志者として居ります。山に残つて居る女性もお國の爲強い子を育てる様に努力してをります。農家のことでありますから食糧の増産にも大いに勵んで居るのであります。その増産に依つて貯蓄をし、戦費の負擔は進んでやりたいと思ひます。二三月前ウライ社の岡山警備隊のお話に依り、高砂族達は決して佛蘭西の佛蘭西をしてはいけません。佛蘭西は子供を作る事を嫌つたから遂に戦争に負けたと云ふ事でしたが、私共戦後に残る女性も子供を良く育て、立派な

陛下の赤子として、皇軍の一員に加へて頂きたいと思ひます。前線に出ました夫には少しも後の心配を掛けない様に私共高砂族も日本人的精神を尊んで、此の大東亞戦争を何處迄も勝抜いて行くため、立派に戦後を守つてゆきたいと思ひ居ります。

【吳氏精々氏】桔梗俱樂部が内寮人を一緒にされたことは本當に喜ばしい事と思ひます。今後は大いに此の俱樂部を育て、行き度いと思ひます。悠々云ふ機会を作る事が一番良い事だと思ひます。そしてお互ひに近寄つて心の距りを取除いて頂きたいと思ひます。

【安間氏】私勉強が足りませんが、大變良いお話を伺はして頂きました。大變嬉しく存じて居ります。本島の皆様方が先程申されました通り、私は協力と云ふ事が今の我々の生活に一番大切であると思つて居ります。内地人の生活と申しますものは禮儀作法とか



塚越正光選評

【塚越正光選評】これでもう良いと思はぬ貯蓄金箱。米鬼、英鬼を叩き潰すまではやめられぬ戦争を、勝ち負けの貯蓄金箱はもういらない。軍の大勝果が敵を撃滅するまでは無敵に打ちやうに、戦力も、眞實な調停の下に、無限に取られなければならない。

【山田氏】常會にもんべの指し額母し。【評】日露の幹部會は日露の指し額母し。常會にもんべの指し額母し。【評】日露の幹部會は日露の指し額母し。常會にもんべの指し額母し。

【安間氏】私勉強が足りませんが、大變良いお話を伺はして頂きました。大變嬉しく存じて居ります。本島の皆様方が先程申されました通り、私は協力と云ふ事が今の我々の生活に一番大切であると思つて居ります。内地人の生活と申しますものは禮儀作法とか

【安間氏】私勉強が足りませんが、大變良いお話を伺はして頂きました。大變嬉しく存じて居ります。本島の皆様方が先程申されました通り、私は協力と云ふ事が今の我々の生活に一番大切であると思つて居ります。内地人の生活と申しますものは禮儀作法とか



ものは何うしたもので、今此の大東亞戦争を戦つて居る日本には是非共々のお金が必要である。だから國民として公債を買ふのは義務である」と説いて聞かされたさうです。所がそのお婆さんは「公債とはそんなものだつたのか、是非私達も買はして頂きたい」と言つてお嫁に來た時、向それ來た若物を賣つて、向それでも足りない所を息子さんの諷解を得て、息子さんのものも質屋に持つて行つて五圓の金を作つて買ひに來たと云ふ事です。此の話を聞いてその人は頭が下つて涙がこぼれたと云ふ事です。生活の切替へも以前考へて居りました時は、政府の方策に従ふ事が出来るか摩うかと考へられた方もありましたが、さうした立派な本島人の方も居られるのです。結局私共は戦時生活への建直しと云ふ大きな仕事をして行かなければなら

りませんから、それには皆様の協力で一生懸命にやつて行かなければならないと思ひます。一家の中でも、年寄りの言ふ事は合理的で無い、科學的でないと若い人はよく言ひますが、よく伺ひますと寧ろ年寄りが言つて居る事で生活の面に於て現在役立つて居る事が随分あります。私想う云ふ仕事をして居りますが、皆感付くのであります。皆様と集つてお互ひに良い所を探り合つて、良い事をしようと思ひましても、一人でやる分には範圍も狭いし、決してそれが爲し遂げられないと感付て居りますから、是非皆様と協力して生活方面の新體制を爲し遂げて行き度いと思つて居ります。

【司會者】 凡ての我々の精神の持ち方、生活の仕方、凡てに思切り戰時的切替へをする必要が非常にあると思ひます。島内の皆様が一

生懸命に、今迄僅か數年の間に、施政四十九年の流れと過去の四十何年間に見られなかつた様な大きな轉換が、切替へが勇敢に退しく行はれて居ります事は、非常に嬉しく思ふのであります。語は少し別になりませんが、此處に居られる内地人は皆第二世で、臺灣を故郷とされる方が、第二世の感想とか、覺悟とかを承りたいと思ひますが……。

君達の心一つである。之を全うする事こそ君達の義務である。富士山を知らなくとも、新高を知り、櫻を知らなくとも、ガジュマルを知つて居る。君達こそ臺灣をより立派なものに築き上げて行く責任者である。更に南方に臺灣が發展すべき時が與へられたら率先して行くべきだ」と慫慂云ふ風に教へて頂ければ非常に結構だと思ひます。私に取りましては、父親が臺灣でどんなに苦勞をしたかと云ふことを私自身が忘れかけようとして居ります。私共は往々昔を忘れ勝たります。先程青年團員を引率して内地に行きました際に基隆の港を出ます時に、約一箇月位の旅行でしたが、臺灣の島が見えなくなり、船の船に來て臺灣に暫くの別れをいたしました。旅行中夜寝る時には、臺灣の方を向いて兩親に挨拶をする行事をして居りました

### 臺灣一家の中心第二世

【連水氏】 實は私の父親は軍要員として南方に行つて居りますが、明治二十八年の戦争直後七月頃に参りまして、母は二年遅れて三十年の九月頃に参つたといふ事ですが、内地人の臺灣生れの子供には「君達のお父さんは先臺灣に渡つて來て今日の臺灣を築いた功勞者である。その名譽を全うするのもしないのも、

君達の心一つである。之を全うする事こそ君達の義務である。富士山を知らなくとも、新高を知り、櫻を知らなくとも、ガジュマルを知つて居る。君達こそ臺灣をより立派なものに築き上げて行く責任者である。更に南方に臺灣が發展すべき時が與へられたら率先して行くべきだ」と慫慂云ふ風に教へて頂ければ非常に結構だと思ひます。私に取りましては、父親が臺灣でどんなに苦勞をしたかと云ふことを私自身が忘れかけようとして居ります。私共は往々昔を忘れ勝たります。先程青年團員を引率して内地に行きました際に基隆の港を出ます時に、約一箇月位の旅行でしたが、臺灣の島が見えなくなり、船の船に來て臺灣に暫くの別れをいたしました。旅行中夜寝る時には、臺灣の方を向いて兩親に挨拶をする行事をして居りました

が、船がだん／＼と沖に出てゆきました時に、今でも忘れませんが、或青年が私に慫慂云ふ事を言ひました。その青年は尤も、私達が乗つた様な大きな船を見たのは初めての青年ですが、「こんなに立派な港があつたのに何故、北白川宮様は澳底から御上陸なさつたのでせうか」と云ふ質問でしたが、その純真さに感激しましたが、又同時に基隆の港と云ふものが初めからあつた形であつたと思はせる様な教育をしつゝ所に、一寸私は考へさせられました。昔の基隆は誠に小さな港でして港の真中に島がありまして、河上記念館或は松本記念館といふのが今基隆にあります。さう言つた河上援師、松本援師と云ふ様な人が、大いに努力をされて今の港が出来上つたのです。私海南島に一年居りましたが、どんな港を作つて居りました

が、あそこは非常な遠淺でしたが、今は日本の力で立派な港が出来て居ります。又その海南島が丁度臺灣の四、五十年前の姿と同じであります。人口の點、生産力の點で成程似て居りますけれども、私共は少くとも違つて居る點が一つあると思ひます。それは瘴癘の地と云ひますか、所謂病氣の關係であります。私の居る間にベスト患者が一人出て大騒ぎをしましたが、今日の日本の醫學の力で見る中に防退した。飛行機でワクチンをど／＼送つて防退したのですが、私の少年時代には鐵道の淡水線の貨物驛が大稻埕にありまして、對岸の福州と淡水との貿易が盛んでして、淡水からは今の大稻埕の河岸にジャンクで荷物を運んで來て居りましたが、此の大稻埕の貨物驛が圓山迄三尺許りのトタン塀が張り巡らされてあつた事を覚えて居

ります。之は臺北にベストが出まして、その媒介をなす鼠を大稻埕迄追つて行きまして、鼠が城内の方に入つて來ない様にトタン塀で仕切りをして居たのです。人が通ります時は、警察官の方が戸をから／＼と開けて、四方八方に眼を配つて通り終ると又閉めたと云ふ事です。實は私の上の兄も役人をして居りましたが、父親と一緒に官舎に居り、兄がベストに罹つて大手術をしてやつと助かつたのであります。此間文學講演のために内地から來られた戸川貞雄さんと南方の話をした時に、序に兄がベストになつた話をしましたら、びつくりして立上つて「貴下があつた速水さんの弟さんか、實は私は貴下のお父さんと一緒にゐたことがある。何年か振りて今又臺灣に來て、こんなに立派な臺灣になつてゐるのに驚いた」と云ふ事をして

た。戦争が始まりまして、應召の方の家庭に名譽の旗を立て様と云ふ事が臺北の市役所で決議されましたが、最初の案は旗の色が黄色いものでありましたが、亡くなつた倉岡博士が非常に反對された。勿論旗を立てるのに反對されたのではなく、黄色に對して反對されたのです。それは黄色い旗は昔ベストで倒れたとか或はコレラで亡くなつた時に、さうした傳染性の患者の出た時に黄色い旗を立てました。それで名譽の家庭であるのに何だか傳染病を思ひ出すから、やめて呉れと云ふ事ですが、今の時代の人にはかう云ふことを話してもわからないのですが、とにかく臺灣にもさう云ふ時代があつたのです。お互ひ今日の臺灣を築いてくれた私共の親や先輩に對する感謝の氣分が薄いのを残念に思つて居ります。今日南方

の共愛團建設の指導者とならなければならぬ時に、正しい優越感を持ちまして、南方での新しい指導者として、私共の先輩が臺灣でやりました努力をすれば、臺灣一家も、私共が努力して結び附かうと云ふ努力も、其處で花が咲くのでありまして、それが臺灣の爲に盡し、臺灣で亡くなられた大勢の人達の苦勞に報ゆるべき途であると思ひます。

【司會者】 大變良いお話を承りました。先輩の御勞苦を活かし、ほんたうにこれに報いる爲、第二世の内地の方こそ、臺灣一家の兄となり、中心となつて、益々立派な臺灣を築き上げてゆかねばならない。最後に鈴木さん、鈴木さんはこちらでお生れになつたのですから、もう純然たる第二世ですが、此の座談會の結論を導くと云つた様な形で、平素考へてをられることをお話し願へませんか……。

### 信賴を以て團結し、勝ち抜かう大東亞戰

【鈴木氏】 私は商人で御座いまして、一介の、平たく申しますと、丁稚小僧です。良く世間の事は判らないのですけれども、商賣と云ふ事から考へて見ましても、私共の代から此の臺灣で商賣をなさして頂いて居るので御座います。大東亞戦争が始まつてから、先程から色々御感想がありましたが臺灣が非常に明朝になつたと云ふ事は、正に私もその通りであると信じて居ります。私が生を享けてから三十餘年でありまして、今日程明確な社會は未だかつて感じた事は無いのであります。然し、之が明朝だから、希望が持てたからと云ふ事で、浮ついた氣持が多少でもあるとするならば、大いに之は戒心を要する事では

無いかと思ひます。島民の士氣は或程度振興されたと思ふべきですが、それと共に相併行して此處に一つの大きな條件が課せられて居ると思ひます。と云ひますのは私共一億人の日本人と云ふものは一歳の子供であらうと、女であらうと、生まれ乍らにして光榮ある日本人であると同時に、要するに大東亞の諸民族の指導者としての資格を生まれ乍らに備へて居ります。ひいては恐らく世界の指導者として、世界の凡ゆる民族を導いて行かなければならぬ、之は運命づけられて居るものであります。此處で私共は光榮ある任務に感奮すると共に、今迄の私達でなくして、大東亞戦争勃發以後はより一層お互ひが勉強して指導者たるべき、所謂日本人として立たなければならぬ、此處に想ひを致さなければならぬと思ふのであります。此の臺灣

一家と云ふものは先程速水さんの仰せの通り誠に大東亞共榮圏の姿その儘で、縮圖でありまして、最も良い標本であり、且つ世界の何處からも注目されて居る所だと思ひます。臺灣に於て假りに六百萬一家が出来ないでは、大東亞共榮圏の確立も無いし、皇民化も有り得ないのであります。その故にこそ先程張文環さんの仰せの如く、本島人と内地人と云つた立場から物を見る癖は止めにして、如何にして臺灣の六百萬一家をより良くし、之の完成をするかと云ふ嬉しい悩みを爲し、こそ一層お互ひに精進が無ければならぬと思ひますが、親しき仲にも禮儀ありて、親子兄弟、たとへ夫婦の中でも、もつとも禮儀を尊ばなければならぬと云ふ事は云はれて育られて来ましたが、今此秋こそお互ひが謙遜の美德を發揮して、お互ひが此

の一家を振起して、切磋琢磨して行く事が、取りも直さずより良き建設であり、且つ速やかに完成せしむべき唯一の方法でなければならぬと思ひます。お互ひに尊敬する、お互ひに禮儀を重んじ合ふ所にはお互ひの信頼が自然と湧いて、心と心が觸れ合つて本當に戦ふ時こそ、何物も恐れぬ神に通ずる道が其處に豁然と開ける事は明らかであると思ふのであります。その一點に集中する事が、私ども第一世に課せられた使命では無いかと私は常々思つて居るのであります。

（張文環氏）今さつき速水さん、鈴木さんの言はれます臺灣の一家に對する客観的な見方と、主観的な見方、之は矢張り自己批判する必要があります。本島人が戦地に行つて初めて自分日本人である。之を見出したと同時に、日本人であると思ふ喜びと誇りを感じる

る。之は客観的に見て本當に正しい姿になつて居ります。で、自分の家庭は之で良いかと云ふ自己批判、之は鈴木さんの言はれます様に、之を浮つたもの、その儘ではいけないと言ふ事は同感です。今迄は獨自な見方をして來て居た。之は臺灣全體の一つの思想でした。果して臺灣は摩う向ふべきか、摩うなすべきかと云ふ事を我々徹底してなかつた、併し乍ら臺灣の向ふべき方向が切り切つたからには、今後に於きましてはもつと精神的な交流を盛んにし、さう云ふ風な機關を設ける必要がありま

す。今迄はさう云ふものがありませんでしたが、今後はお互ひに雅想を無くし、お互ひの感情を知り合ふ、想うした座談会でも聞き、一緒に過ごしてお互ひに氣持の交流を圖る機會を作らなければならぬと思ひます。〔司會者〕色々有益なる而も興味あるお話を伺はして頂きまして誠に有難う御座いました。今此處にお互ひ話が出ました様な氣持で、臺灣が振つて居ります。大事な使命を完全に果しまして、大東亞戦争を勝抜く爲に、又大東亞の共榮圏を立派に打樹する爲に、臺灣の五十年の統治が大きな貢獻をなし得る様になければなりません。その元をなすものは何と言つても臺灣一家、お互ひの固い握手、心の溶け合ひが大仕事と思ひます。重ねてお祝申しあげます。有難う御座います。

### 皇奉に移管された

## 臺灣青少年團

### 「一問一答」その性格と諸計畫

#### 國民組織と不離一體

〔問〕今度臺灣青少年團が皇民奉公會に移管されましたが、これは組織を皇民奉公會の國民組織と不離一體のものたるため、青少年の訓練とか實踐行動はすべて皇民奉公會の機構に則らしめるためですか。

〔答〕さうです。大東亞戦争の進展に伴ふ新事態に對處し、本島青年の國民資質を養成し、その總力を國家目的の遂行に動員集結し、これにより皇民奉公會の飛躍的發展を推進させるために、總督府の方針に基づき臺灣青少年團を皇民奉公會の統制下に置き、更にその清新活潑たる展開をけがらうと云ふので、〔四〕では、臺灣青少年團の

本旨について伺ひたいと思ひます。〔答〕それは男女青少年に對して皇國の道を修練せしめ、皇民奉公會の實踐行動を推進すべき團體的實踐訓練を施して皇民的な組織を達成するのが目的です。そのためには男女青少年を一元的な組織の下に結集し、皇民奉公會の團體的實踐訓練を通じて忠良なる皇國青少年を養成することが刻下の急務となるのです。

〔問〕組織その他

〔答〕それは組織はどうか云ふ風になりませうか。

〔問〕皇民奉公會組織統制の下に、皇民奉公會本部部長を總監とし、皇民奉公會事務局長を團長とし、州、市、郡、街、庄等の

地方團に於ては、皇民奉公會州團本部、市郡支會、街庄分會の長が團長となり、その組織はあくまでも皇民奉公會の國民組織と不離一體です。

〔問〕單位團の分隊組成はどうなっていますか。

〔答〕區會又は部會の區域を以て、奉公運動の實踐推進に手落ちのないやうにしてあります。又官公衙、工場、會社等に於ても、市町村の青少年團長の認可を受けて青少年團を設けることが出来ます。

〔問〕青少年團員の年齢は、

〔答〕二十五歳以下となつておられます。これをこまかく申上げると、青年團は十四歳以上二十五歳以下の者、少年團は國民學校初等科第三學年以上の見習となつておられます。

〔問〕青少年團員にして

〔答〕勿論、青年團員にして

〔問〕本年度の諸計畫

〔答〕青年團員を動員して座

〔問〕指導者あるひは幹部の

〔答〕健全なる文化運動によ



# 軍艦下の日々

海軍訓練隊員に

## 志願兵への決意を訊く

遂に來た歡喜の日、五月十一日政府は閣議に於て臺灣同胞及び朝鮮同胞につき海軍特別志願兵制を新設することを決定、この快報を翌十二日午前十時三十分、情報局より發表した。この海軍特別志願兵こそは滿洲事變、支那事變を契機として、島民の皇民的自覺は頭にかき、特に熾烈なる兵役義務の要望は澎湃として起り、更に支那事變が大東亞戰爭へと進展するや、島民の敵愾心はいやが上にも昂揚し、軍夫あるは通譯として厳正なる軍隊の規律の下に、第一線に活躍して、よく任務を果し、内にありては各種訓練に、あるは國防献金に愛國の赤誠を披瀝した賜物であり、始政に四十八周年、先に施行された陸軍特別志願兵制と相俟つて、今こゝに内臺一如の統治の大本に則り、本島青年が光輝ある帝國海軍の傳統を繼承し、盡忠報國の天任を果し得るに至つたことは、まことにわれわれ臺灣島民にとつて忘れ難い出来事である。

われ等は今一視同仁の聖旨を奉體し、聖慮に應へ奉ると共に、改練に四十餘年、臺灣を今日あらしめた先人の努力に感謝の誠を捧げ總力を擧げて、戰勝獲得に邁進すべきである。

### 歴史的な快報

この歴史的な快報が六百萬五十萬島民にもたらされるや、かねてのことあるを覺悟してゐた本島青年の喜びはもとより、わが子を、わが夫をこの榮譽ある帝國海軍人として軍艦隊の下

に征かしめんと欲する熱意は溢つて歡喜の渦と化し、決戦下に頼母しい軍國繪巻を展開したが、巷に軍艦旗の旗波とよめく祝賀式典のその日、臺北市圓山の皇民奉公會海洋訓練隊を訪れ、海に挑む本島青年に、海軍特別志願兵制實施の感

### 憧れの帝國海軍

〔胡慶順〕 われ、本島青年の憧れは帝國軍人である。眞珠灣頭に花と散つた九軍神をはじめ、マライ沖に、あるはソロモン海に於て敵の巨艦を轟沈させた海軍航空隊員、その他わが

海軍勇士の武勳を聞くたびに、私は押へても押へきれない感激に、もうても立つてゐる。われ、こゝは同じ日本に生れながら、軍人になれないなんて、こんなつらい、そして淋しいことがあつた。先に陸軍志願兵制度が實施された時に私は真先に志願したのだが、つひに不合格だつた。そこで、私は少年の頃から飛行機が好きなので海軍少年航空兵にならうと考へたが、これは本島人は出来な

思ふがわれ、隊員は教官殿から海軍志願兵制實施のことを聞いて手を取りあつて泣いた。われ、こゝは海の先驅者として先づ真先に志願しようと申合せたのです。自分の竹馬の友で、やはり航空兵志望してゐる友人があるが、自分と一しよに陸軍少年航空兵を志願して不合格になつたので、随分落胆してゐたのですが、今度〇〇航空隊に勤めることになつたと云つて先日通知がありました。彼は今度の海軍志願兵制實施の事を知つてどんなに感激してゐることだらうか。われ、本島青年は男と生れたその時から既に生命は、陸下に捧げ奉つたものと考へてゐるのです。郷里には年取つた母と兄が家をまもつてくれてゐるが、早く軍服を着けた姿を見たいものだと思つてゐます。

私は東京の學校で勉強することになり、大和丸に乗船したが、その時ひとり船尾に立つて、くだけ散る波のしぶきに見れば、遂には海の中に飛び込んで見たいやうな衝動にかられたことがあります。自分が海にあらがれを持つたのも實はこの時からで、一生を海に捧げる覚悟を固めたのもその時です。

われ、この隊へ入隊したのも、たゞ徒らに南方進出をあこがれると云つたやうなそんな生やさしい氣持からではない。今本島青年は軍人となるのが許されなければ、何かの形でこの大東亞戰に参加し、その名譽を子孫に傳へたいと云ふ熱意に燃え立つてゐるのです。みな訓練を受けたがつてゐる。ぐつと自分の身體をひきしめて見たいのです。

今日も非下教官から、海軍志願兵制實施のことをラジオで聞いた。われ、先輩がこれ〇〇の海軍軍需部に勤めてゐるのです。こんなことを手紙に書いて寄せたさうです。教官殿喜んで下さいます。私達十三人は、一人残らず第一番に志願します。そして受付番號は必ず一から十三までを取ります。私達は海洋訓練隊出身者だ。わが母隊の名をあげ、大日本帝國海軍軍人となるのです。本島青年の熱氣を發揮して、大東亞戰を勝抜くのだ。わが訓練隊は海軍志願兵養成所と同様です。一、二期生はもとより、三期生もみなわれわれの後に續いで志願してくるやうに、と云つて来た。よく本島青年には打てばひびく感激性がないと云はれるが、それは見方が一方に偏してゐると思ひます。われ、胸中は今火の玉のやうに燃え上つてゐるのです。

〔王徳雲〕 遂に發表された、海軍特別志願兵、われわれ本島青年はただ一視同仁の廣大無邊なる皇恩に感謝するばかりです。海を征く、なんと痛快な喜びではなからうか。海を制することこそ、國家興隆の本である。國家は今海國日本を背負つて立つべき海洋青年を要望してゐるのである。かつてわれ等の長谷川總督は臺灣は四面海にかこまれた不動の航空母艦である、と云はれたことがあります。總督さんを艦長として、われわれはその乗組員として活躍したい。

私は總督さんのこの言葉に深い感激をおぼえ、又公學校の時に一度高雄へ修學旅行に行つたことがあるがあの洋々たる海の偉容に接

### 貯金しませう

## 「國家あつての我々」

◇…本島婦人にこの決意

貯蓄 臺北の二三箇所では本島人主婦たちが集つて國民貯蓄の座談會を開いたが、その席には七十歳前後の老婆まで加はり、時局的に非常な氣持をあげ、結局「若い者によく話して貯金させませう」などと今の若い者願ひの時局認識談會に出た話の内容は、ぜひ全島の若い者たちにも又全島婦人層にも聞いて知つて貰ひたい事なので、その座談會に出た話の主なものを簡単に紹介する。

この貯蓄増強婦人座談會は、皇民奉公會の主催で

### 高砂族の決意

「植田新一」私は先に陸軍特別志願兵を第一回、二回と續けて志願したのですが、ついに合格の榮譽を得ることが出来ず、淋しくてなりません。私の部落は臺東廳の關山郡鹿野庄の山中の部落で、私の父は山の中に七人の高砂族勇隊員を南方の戦線に送り、又私の兄は今陸軍軍馬としてXXで働いてゐるが、後に残つた青年たちは御召の日

にそなへて、充分訓練を受けて、何時でもお國のお役に立つ様に心がけてゐるのです。それで海の好きな私はこの海洋訓練隊に、又弟は台南工業職工訓練隊に入隊したのであります。

丁度訓練隊入隊の許可書が来た時に、私は畑に出て働いてゐたのですが、後でよくと弟が通知を受取つてそれを畑の私のところへ持つて行かうとしたら、そばにゐた父が、いや大切なことだから自分から知らせに行くと云つてそれで父自身が薬書を持つて来てくれたのださうです。

早速家へ歸つて見ると、母はもう出發の準備をして縫針や糸まで用意して、それをトランクへさめてゐるところだった。そして兄さんも臺北にゐるのだからお互に助け合つてしまつかり、早く立派な人になつてお國のためにつくしてぐれとさうされた時には、思はず涙が出てしまつた。そ

「若し空襲などがあつて銀行が焼けても、貯金通帳さへ持てれば焼けない他の銀行で拂つてくれるし、又通帳が焼けても銀行から新しいのを出して貰へる。然るに札を家にかくして置いて焼いてしまつたのでは利子もつかぬし又どうにもならない」とか、いろいろためになる話が出た。そして「貯金以外の収入の回収についても、よく時局を理解してゐる婦人がゐると、其の地方は必ず成績が宜しいといふ話から、全島で嘉義が成績優良であつたその背後には、本島婦人長谷夫人が隠れてゐたといふ事實などが話されてから、そこへ集つた本島主婦連の話し移つた。それ等の話を綜合すると、貯金する方法がよくわからぬから銀行から集金人を寄こしてくれ、又貯

金相談係をおいてくれ、或は日婦の分會長が面倒をみてくれるなどの注文があり、意見をのべる段になると、中老年の主婦ながらなかなか堂々としたもので、若い者も一驚を喫したらしい。

その中の二三を紹介すると「國家あつての我々である。おいしいものを食べてしまへといふ者もあるが、三度の食事を二度にしても、國家のために貯蓄すべきことを、若い者に理解してもらはう」とか「國家は親であり、國民は子である。親が保つては子も保てる。子が保つて親が立つていけるか、自分たちはやれるだけやつて御奉公したい」等々。

これ等の座談會は何れも三、四十名の主婦が集つてゐるなか、活潑であつたが、その氣持も亦すばらしいものであつた。

満天下の青少年諸君!! 今こそ  
戦力増強、生産擴充の爲に  
工業知識(實地に役立つ)を學び取れ!!

機械科・電気科・工業化学科  
採掘科・冶金科・土木・建築科

工業博士課程 八ヶ月  
工業士課程 二年  
工業技士課程 三年

東京・東京二〇五五五 法人 国民工業學院

# 奉公現地報告

## 熾烈なる皇民意識

### ウライ社の常會

仙墳ウライの相模もつた。せらぎと輝雨の降りなす。雨脚、驟雨と湯煙の清澄な飽和感も失はれず、あるかと思つた。浴場から見る溪の右岸は傾斜ビルマルトと思はせる。遊歩道を砂塵を上げて疾走する貨物自動車はひまきまらぬ。左岸は山肌が荒々しく削られて軌道を敷く工事。火照の騒音が遠にこだます。〇〇と△△の事業推進工事で。

かうした近代文明の渦中に置かれたウライ社の一、それは大昭和戦日當夜であつて、ゆくりなくも高砂社の常會を見ることを得て、この相模の中絶められて失はれざる山の人の純粋さと、皇國民としての熾烈な皇意を力強く示され、感動の餘り心もすくもるものがあつた。

戸數四十二戸、一月か、目立つた者も少ないが、入居ら二八三入つと出居してある。の年輩でも少く見えた。然しこの年輩でも皇はよく分る。赤

ん坊を抱いた若い婦人から十四五の少年まで和やかに、それもきちんと長幼の順に並ぶ。正面にウライ社のお父さんである岡山警部補、その外大久保部長、朝岡巡査さんなど制服に整いで、團圓で火照を追ひながら、囁んで合める話ぶりである。

国民行事 序いで秋野君が司會に立つ。教育所の手傳ひをするまで三十二の若きながら追らぬ態度と齒切れの良い國語は歴然である。

切り詰め、倍々働いて貯蓄に励まうではないかと説いて一人當り三十圓の増額を傳へる。暫く皆 黙つてゐた。發香を問ふに全員喜んでやりますと答へる。一寸受け取つた感じではその重大さが判り吞み込めないので氣徳に引き受けたかの様であつた。此處で青年團長の勸告を立つて生活の切り詰めること、一銭々を蓄めてゆくこと、一銭々を蓄めてゆくこと、の困難と重大さを具體的に述べて念を押す。一人一人に聞いてゆくが矢張り遂げますと確信を以て答へる。

記者も簡潔極まる高砂社の生活を切り詰めるといふ事を毎朝とした。社の世話役と云つた格の朝岡巡査は手帳を翻つて次の様に答へるのだつた。

「御質問の様に生活を切り下げることには困難である、といふよりは問題にされない。然し皆は働くことに依つて貯蓄することには確信を持つてゐる。朝岡氏は一向に向つて、ウライ社の人口が二百三十六人、社全體の増額が六千七百八十圓であるから一人當り一年三十圓となる。二箇月二圓五〇

つた。現に當社からも〇名の義勇隊員、軍屬、勞務奉公員が前線に行つてゐる。第二回の義勇隊員の活動は昔の如く知つてゐる通りである。此の度義勇隊員の戦死、戦病死者が発表された。私達の文山郡下では幸ひ一人の戦死も無かつたが、羅東、蘇澳兩郡下では〇名の戦死、戦病死者があつた。お國の爲とは云ひながら、油に輝まじいことである。當社では全員申し合せて、羅東蘇澳兩郡下の遺族の方達に慰問文をさし上げた。その慰問文を三日の中にまとめて送ることを決議する。大久保氏が健氣な遺族の方達の決意を披露すると、皆涙をためて聞いている。一青年の動議。

また米を節約供給する。山のこただから米田は少い、ウライ社で精々二十六甲歩と云ふ。收穫も少い。それは四十二戸が食べられない。それを要求されずして、吾々も日本人から出させて貰ふことなのだ。記者は何とも知れない。感動に打たれながら、出来ること、山警部補さんからは激しいお便

最後の申し合せ事項は當社出身の義勇隊員、軍屬その他に手紙を出すこと。茲で司會者立つて軍屬として行つてゐる田山君、栗原君からの青年團員の手紙を讀む。皆さん御元氣ですか、私も元氣に誰にも負けない。決意で御奉公してをります。岡山警部補さんからは激しいお便

には力めて手紙を出しますが、然し私一人では困きません。皆さんからもどしどし出してやる様に力めて下さい。と岡山氏が語り、義勇隊員や軍屬の留守家族の奥さん方に「書きますか」と聞くところ、素直にうなだれて、「はい、きつと書きます。と答へるのだつた。

申し合せ 事項は以上で終つて各々の動議になる。青年團長の湯本君から提案があつて、自助會から出張箱に御祝ひの金を出すこと、金額は自助會で定まることを決議。

「青年、此の前の夜社の直ぐ裏山で畑に火を入れた者があつた。夜あふいふことをしてはいけない」と云ひ出す。「誰か、火を入れたものは手をつけよ」と岡山氏が聞く。一青年が勢ひよく手を上げ、照れ臭さうに笑ふ。皆もつられてどつと笑ふ。

た〇〇、△△の工事中の吾が社に根柢を築かれた場合はどうなるか。これは非常に重大な問題で、お互ひに嚴重に成り合ふべきことである。と熱して来る湯本君を見上げながら記者も一帯を喚び出した。何と云ふ熾烈な皇民意識であらう。何と云ふ素直らしい青年であらう。彼等青年が交臂で監視明について、防空知識を相當持つてゐるとはいへ、これ程熱烈な信念を抱いてゐるとは思はなかつた。

序いで一青年が赤土の新竹州を覗に行つて、自分達より米の收穫が多いのには感心した。これは堆肥の作り方をよくやつてゐるからだ、自分達も何とか考へて大いに増産に力めたい。いけない、と述べる。岡山氏立つて黒板に圖示し、選草草を肥料に使ふこと、その植ゑ方を懇切に教へる。

十時過ぎ常會を終つて、三々伍々社に歸る人達を見送りながら、昔き御稔成の畏さる思ひ、ウライ仙墳の夜氣は昔ながらに清澄であつた。

(編輯部)





連載小説  
青年の門  
第一回

庄司總一  
絵・立石鏡臣

三時間くらゐはねたであらうか。それも何と云へず厭な夢に墮はれて、半ば目が覚めてゐる感じのあの半意識のうちで苦悶してゐるところを、ちよつと醒めようとする時間だと知らせに來た。うゝ、と江秋火は生きものゝやうな唸り音をたてながら起き上つた。その日は大事な試験があり、彼の雪柳に起して

つたのはありがたいが、寢覺めがわるいことに變りはなかつた。日ごろ決して我儘な性分ではなかつた。それに養理の姉となれば自然氣兼ねもしてゐるのだが、その朝ばかりは、起してもらつても、あつたうと云はず微突一つ作らうとしなかつた。そして、昨夜徹夜同然の寝不足へもつて來て、慣れない外米だから、朝飯のうまいはずもなく、砂を嚙むやうに二三杯かつこつと、そとくさ

仕度をはじめた。洋服のボタンをかけながら、開いた南の窓をみると、なほに眺めると、狭いこぢりんの庭の向ふの屋根の上から櫻の梢がのぞいてゐる。まだ固く閉ざした筈がやわらかい朝の光で温められてゐる。わづかに残雪をのせた北側の壁からは、陽炎のやうにちら／＼と湯気が立ちのぼり、どこかで桶を傳つて落ちる春の水の音がする。

と半分までしか調べられない始末だつた。しかし、秋火の今朝の愛戀は決して試験の心配ではなかつた。いまし方また悪夢の厭な感じが覺めた後まで、移り香のやうに肉體に附纏つてゐるからであつた。

だよ。卒業論文がもう一息で出来上るところなんだ。そいつをやつとけしてしまへば、もう大丈夫だ」と仕事完成を期待する熱い語氣で云ひ、秋火も「一生のうち一箇月でいゝから、君がゝる勉強に夢中になつてみたいもんだ。しかし、勉強し過ぎて死んでしまつた愚劣な奴も世の中にはあるからなあ。どうだい、一つ休暇になつたら、伊豆の方へも旅行にいかうぢやないか」と、本やノットなど散らした彼の部屋の有様をながめながら、かくべつ不安もなく別れた。それから十日あまり秋火は自分の方の試験もあつて、まだ彼に會つてゐない。同じ臺灣から東京に來てる多くの學生や知人のなかでも、林英茂ほどに心から親しいものはない。週に二度は會つてゐる。それが、いつからか尋常でない裏方をしはじめたので、秋火は氣惑りで仕方なく、昨晚も國際法に馬力をかけながらも、ちよつと英茂のことが念頭に浮んで來て勉強の進行が妨げられた。そこへまた變な夢である。どうも、氣持ではない。しかし、「馬鹿な、英茂が死ぬなんてこ

とがあつて堪るものか。そんなことを考へるなんて、彼奴よりこの俺のほうが神經衰弱になつてゐるのかもしれないぞ」と、日ごろ物事をかつぐことの大嫌ひな秋火は、迷妄な心にさらはれた自己を憐れながら、元氣を出して學校へ出かけた。

だ。試験中ぐらゐの不精進を生やしたつて誰か笑ひもしないだらうに、いつものやうに刺つたての頬が磨いたやうにすべ／＼してゐる。この男にはとくに厭味な點もなければ、か、知つてゐるのだが、どうもこの際のない身じまひが馴染めない。それに、なかく、如才ない、情口者である點も、秋火の好みに合はないので、親友の林英茂の次に親しくしてゐる友達でありながら、陳柏舟に對しては心の奥までは觸れ合へないで來た。さういふ限界で充分満足し合つてゐる友達である。

が、君、失態だといふぢやないか。本當かねぞりやあ。」「さうは思はないが、僕は」きつぱり否定しようと思ひながら、秋火はつい曖昧な口振りになつてしまつた。林英茂のこのごろの元氣は女のこのに關係があるのかも知れない。さういふ疑ひは秋火自身抱いてゐるのである。しかし、彼はその疑問に對して激しく抵抗してゐるのだ。もしそれが本當なら、當の林自身がその事情なり心の苦悶なりを、何はさておきこの自分に洩さなければならぬはずだ。林の口からはさういふことは聞いてゐないし、事實否定さへしてゐるところをみる。いま陳の云ふ戀愛事件など、おそろしく彼ら友人仲間を勝手にでつち上げた單なる噂にすぎないのでないか。だが、もし林が嘘を云つてゐるのだとしたら……この自分に對しては何一つ包み隠すことのない彼が、事女に關することだけは例外だとするなら……

無二の親友で、何もかも承知してゐるから、承知してゐるのだと思ふものだから、晝飯のついでに一つ詳しい事情を知りたいものだとうづうづしなから、誘ひをかけた。

「林さんは堅い人だから、僕らもちよつと意外なんだよ。しかし、彩ちゃん自身は、いつの場合だつて、自分から罪を作らうなんてそんな悪い考へはちつともないんだと思ふ。あゝ、みえても、しんは至つて無邪気で淡白なんだよ。ところが、男の自惚れつてやつが、すぐ自分に氣があるやうな幻想を起してしまふ。正直云ふと、かく申す某も、彼女に對してはさういふ經驗をしてゐるんだが……。江君、君と思ふ、徐氏彩蓮を。」



「何とも思つてやせんよ。」  
「そりや、君は友人として怒るのは無理はないさ。しかし、彩蓮に失戀した男は何も林英茂さんを以て嗔天とするで、わけぢやないからな。林さんはあんまり眞面目すぎるんだかむかして来た。親しい友達のこと、無責任な面白半分の話題にされるのは我慢がならず、試験が終つてのびくした氣持で味と一緒に飯を食はうと思つてゐる愉しさを、忽ち」

「きみもさう思ふか。……それで、だしかに今日出かけるのはみなかつたんだね。昨日は？」  
「さうね、昨日も氣がつかなかつたわ。四十人からいらしやるんですけど、一々覺えてははしませんわ。合鍵を貸してくれたまへ。」  
「女中からちよつと話を聞きながら、江秋火は何がしら厭な氣がした。明方うなされた虎姑婆の夢の恐怖が、不意に頭を掠めたのである。けれど、それはほんの瞬間のこと、鍵を受けとつて二階に上つていく時は、不吉な豫感などは少しもなくなつてゐた。第一、英茂は部屋にゐるはずはない。たぶん學校へ行つてまだ戻つて来ないのだらう。一つ留守の間、机の中でも引掻き廻してやらう、そしてラジエーターでも出て来たら、うんとちよつとめてやらなくちゃあ、などと悪戯心さへ起して、ガチャリと音を立て、ドアを開けた。と、意外にも、そこに林がゐるではないか、敷いた布圍から體半分登へ乗り出して、まるで泳いでゐるやうにうつつ伏してゐる林英茂が、

「お、何の眞似だい。風邪をひくぞ。」  
だが、その言葉も終らぬうちに、頭の上に大鐵槌がガンと落ちて来たやうに、秋火はぐらくと目眩ひがしたほどと倒れかゝるやうに、彼は横はつた股體の身近かに寄つて、はげしく胸のあたりを撫すつた。が、林英茂は目を覺すには、あまりに深い眠りに落ちてゐる。掌はガラスのやうに冷たい。  
「馬鹿、馬鹿野郎……」  
まるで生きてゐる者に對して腹を立ててゐるやうに、秋火は不機嫌にブリ／＼しながら罵つた。……それから暫時氣が抜けたやうに手を拱いて呆然とただそこに坐つてゐた。肝腎な頭がどこかへ行つてしまつて、ただ、どき／＼と激しく胸壁へ衝き當る心臓だけで生きてゐるやうな工合だつた。  
やがてハツとわれに復つたと思ふと、秋火は友達の體を布圍へ覆せて、

つたが、しかし十日前會つた時の彼のただならぬ衰へ方を思ひ出すと、ちよつとしたり自分に云へぬ秘密を持つてゐるのかも知れない。  
矢も楯も堪らず江秋火は林のころへ飛んでいつた。浴谷で乗換へて帝都電鐵の水稲町で降りると、そこからほど遠くないさくらアパートに彼は住んでゐた。建物は大きくてが、つちりした作りであつたが、各前に似合すどこか陰氣な感じのするアパートだつた。西かたに杉林があつて、午後の日の進むにつれ、建物のあたりには深い影を落すせるでもあらう。それに、林英茂のゐる部屋が北向きで、しかも、風變りのつもりで植ゑたのだらうか、白っぽい樹皮のさ／＼と立つてゐる、いかにも寒々とした氣配であつた。秋火の目にはあまり感じのいゝアパートでなかつたので、兄と同居してゐる蒲田のはうに來ないかと林にすゝめてゐるのだが、卒業も間近かに迫つてそのまゝになつてゐた。

「さう、江秋火はさくらアパートの暗い女間に入つて眠ると、幸ひ林はるるといふのでそのまゝ二階へ上つていつた。そして、お、英茂、ゐるか」といふものやうに勝手にドアのノブを廻した。ところが、どうしたかドアが開かない。近頃、夜眠れないといふから晝寝でもしてゐるのだらうと思ひ、こんどは原を叩きながら、前より聲を大きくして呼んでみたが、依然として應へがないう外出したんだと思ひ、無駄足になつてがつかりしながら、いつ時はんやりと扉の前に突立つてゐた。諦めて戻らうと思ひながらも、アパートの人はるると云つたし、何だか自分でも部屋の内には林がゐるやうな氣がしてゐなかつた。  
「さういふ話で階下へ降りて來ると、しじゆう來てゐるで知つてゐるこのアパートの女中に出會つた。  
「どう、このごろ林英茂變りないか、あら、なかつたの。そんなはずはないけど、お休みなんぢやないかしら。」  
「あまり外へ出ないの。」  
「え、なんだか怖いみたい。口も利かないし、笑ひもしないんですもの。ちよつと變よ。」

「さくらアパートの暗い女間に入つて眠ると、幸ひ林はるるといふのでそのまゝ二階へ上つていつた。そして、お、英茂、ゐるか」といふものやうに勝手にドアのノブを廻した。ところが、どうしたかドアが開かない。近頃、夜眠れないといふから晝寝でもしてゐるのだらうと思ひ、こんどは原を叩きながら、前より聲を大きくして呼んでみたが、依然として應へがないう外出したんだと思ひ、無駄足になつてがつかりしながら、いつ時はんやりと扉の前に突立つてゐた。諦めて戻らうと思ひながらも、アパートの人はるると云つたし、何だか自分でも部屋の内には林がゐるやうな氣がしてゐなかつた。  
「さういふ話で階下へ降りて來ると、しじゆう來てゐるで知つてゐるこのアパートの女中に出會つた。  
「どう、このごろ林英茂變りないか、あら、なかつたの。そんなはずはないけど、お休みなんぢやないかしら。」  
「あまり外へ出ないの。」  
「え、なんだか怖いみたい。口も利かないし、笑ひもしないんですもの。ちよつと變よ。」

「さくらアパートの暗い女間に入つて眠ると、幸ひ林はるるといふのでそのまゝ二階へ上つていつた。そして、お、英茂、ゐるか」といふものやうに勝手にドアのノブを廻した。ところが、どうしたかドアが開かない。近頃、夜眠れないといふから晝寝でもしてゐるのだらうと思ひ、こんどは原を叩きながら、前より聲を大きくして呼んでみたが、依然として應へがないう外出したんだと思ひ、無駄足になつてがつかりしながら、いつ時はんやりと扉の前に突立つてゐた。諦めて戻らうと思ひながらも、アパートの人はるると云つたし、何だか自分でも部屋の内には林がゐるやうな氣がしてゐなかつた。  
「さういふ話で階下へ降りて來ると、しじゆう來てゐるで知つてゐるこのアパートの女中に出會つた。  
「どう、このごろ林英茂變りないか、あら、なかつたの。そんなはずはないけど、お休みなんぢやないかしら。」  
「あまり外へ出ないの。」  
「え、なんだか怖いみたい。口も利かないし、笑ひもしないんですもの。ちよつと變よ。」

その上に馬乗りになり、両手で腹をぐいぐい押しはじめた。無我夢中だつた。人工呼吸を施しながら、秋火は目を友達の顔から離さなかつた。葉っぱのやうに若さめた頬に血がのぼつて来はしないだらうか。半ば開いたまの眼がびくびくし出しはせぬか。動んだ唇が動いてどんなにかすかでもいふから息をしなだらうか。腹を押しながら、時々、友達の顔のそこそこ、高くないが恰好のいゝ鼻や、理知的な広い額や漆黒のつや／＼した髪の毛などに、なんだか蘇生しはじめた徴候を見出したやうな気がして、瞬間の躍る気持になつたが、いづれもそれは秋火の感情のなかだけに生きてゐる生前の彼の面影にすぎなかつた。

かうして秋火は小一時間も死人の腹を押しつづけたが、その必死の努力も、火のやうに熱い希ひもすべては空しくつた。醫者に來てもらつてカンプルでもぢやん／＼打つたら、生き返らんぢやないかと、醫者を呼びにいくことをいつ時真剣に考へたが、そんな狂亂はむしろ死者を侮辱することだと気が附いた。——林英

茂は間違ひなく死んだのだ。たの、一方ではそんなことは嘘だとも思つてゐるやうに、秋火の目からはまだに涙が湧いて来ない。そのくせ、死を確認してゐる證據には、さでいふからどうしたものかと、早くもこの不幸の出来事の始末や手續のことについて考へはじめてゐるのだつた。

何より真先に警察へ報らせなければならぬが、先づ遺書や證據物件のうち調べられて工合のわるい物や故人が死後に汚點を残す類の物、汚くないと思ふが、もしさういふものがあつたらいまのうら取除いてしまはなければならぬと思つた。ひとわり秋火は部屋を眺め廻した。先づ二間の壁を天井とどくぐらに敲つてゐる書棚に、ぎつしりと詰まつた書物は、林の物だけ、學究に對しては、やがて美事に復讐を遂げたともいふやうに、むごい力で死の床へのしかゝつてゐた。その反對側の三尺の間にある洗面所の床はひつくり返つたコップの水でよれよれをり、睡眠の小箱が三つもころがつてゐて、いかに苦悶の様を物語つてゐた。

北向きの窓に沿つてデスクがあり、そのすぐそばに小型の文机が並んでゐる。そして他はかなり亂雑を極めてゐるが、その文机の上だけはきちんとして、そこに載つてゐる部厚い原稿がはの暗い内に白々と目立つた。

——羅馬の解放奴隷に就いて。

これが彼の卒業論文である。X、X、大學の豫科から西洋史學科に進んで以來、羅馬史が彼の研究對象で、とくに卒業前の一年間はこのテーマと取組んで日曜もほとんど外に出ないほどだつた。大體、ローマ時代に關する文獻や參考書といふものは夥しい數で、必要な本を蒐めるだけでも容易なことではなかつた。それに英獨佛にラテン語、これらの語學を物にしなればならぬから大變だつた。林は私立大學であつたが、その優れた頭や學問に關する情熱に對しては、一高から帝大にいつた、いはば秀才組の江秋火もたうてい商が立たなかつた。石を積むやうにコップと絶え間なく勉強する學者風な性格など、彼はいつかうに持合せでゐないのだ。それでも林がよくした歴

とか。その氣持が本當に分るのは秋火だけである。もちろん未だ一介の學生であるから、斯界の學者からみれば、研究も浅く出来上つた論文も問題にはならないに決つてゐる。しかし、林の場合には、その仕事の完成が普通以上の、或は普通とは異つた歡喜と安堵を伴ふやうな一身上の事情があつたのであり、それは喜びや安心と同時に哀しみと苦痛を喚び起すやうな境遇にあつたのである。

ともかく、永い間あまりにも張り詰めた絨が、一時に弛んだ結果の精神錯亂にちがひない。そして當然遺書があるものと思つて、秋火は枕元から机の抽出から、或は木箱の上やら押入の中まで探してみたら、つひに何一つ見つからなかつた時、自殺が正氣で計画的に行はれたものでないといふ確信がいつさう強められたのであつた。あれほどに親思ひの彼でありながら、遠い臺灣にゐる肉身に對して走馬きの書置一つないし、また何はさておき親友の江秋火に訣別の辭があるべきはずなのに、それもないのだ。

あまりにあつてなくて、物足りない

かつた。で秋火は何かありさうな氣がして、押入の中にあつた手文庫を開け、束になつた書輪を取出して、慌しく調べてみた。すると、その中に徐氏彩蓮からの手紙が三通出て來た。思はずキキリとした。もちろん彩蓮が一時しじけ／＼と林のところへ出入りしたことはよく知つてゐる。だから、他の連中がしてゐる取沙汰といふものも、まるつきり根據がないわけでもないのである。だが、當人はさういふ關係は頭から否定してゐた。あの女、用もないのにしよつちゆうやつて來て勉強の邪魔をするので、實に困るとこほしてゐた。秋火もみかねて二度彩蓮に忠告した。こゝろへあつたのだ。

それでも、もし林英茂が女のこゝろについて自分に隠してゐたのだとしたら、そして、彼の死因もそれに絡つてゐるのだとしたら……

江秋火は彩蓮の手紙を讀んでみた。さうすれば何かの手掛りがえられるかもしれない。だが、秋火は思ひ止つた。たとへば真相がどうであらうと、いまずでに俗界を去つて昇天した友達の魂にむかひつて、息は

しい疑念を抱くこととは救し難いことだ。それにかうした権事を目の前にして、いつまでもぐ／＼してゐる餘裕もない。いまは一刻も早く後の始末にかゝらなければならぬ。

さう思つて、徐氏彩蓮の三通の手紙を内ポケットにさめながら、アパートの電話を借りて警察へ急報しようと思つた。その時ふと何を考へたのか、また手紙を取出して、それをく／＼とにねちつた。そして、北向きの窓を開いたと思ふと、それを白樺の根方の雪の斑消えのあたりには、とほ／＼と投けた。——以下省略

**南方宗教事情とその諸問題**

本書は文部省主催「南方宗教講座」に於ける諸講演を輯録加筆せるもので、文部省の厚意により編纂刊行することになつたものである。A5判三〇頁、四八〇頁、二五五頁

執筆者—文部省阿原謙蔵、國民精神文化研究所長伊東延吉、東京帝大教授板澤武雄、東京帝大講師山本快龍、文學博士長井眞琴、立正大學教授木村日紀、日本基督教青年會同盟總主事齊藤敬一、回教園研究所長大久保幸次、東京帝大教授文學博士宇野圓空

**聖戰母心** 小林節雄著 四一六〇頁

**生活の新科學** 櫻井啓著 四二五〇頁

生活の科學化すべし現今に於ける一讀すべき一般向書

**日本の滑空飛行** 清水六之助著 四二八〇頁

グライダーに關しあらゆる事項を網羅せる無二の力作

東京・小石川 **東京開成館**

電話三五三三番



# 蓄の経済学

## 貯蓄戦を 勝抜かう

四億圓貯蓄目標の突撃命令は既に下りました。大東亞戦争は決戦に次ぐ決戦の連続であります。貯蓄戦も亦決戦に次ぐ決戦の連続でなければなりません。本年度は敵米英の必死的反攻の年です。防空戦に貯蓄戦に勝ち抜かねばなりません。二百七十億圓の國民貯蓄は戦力を増強する強力な推進力であります。また、前敵軍に突進する我國臨時財政經濟運営の基礎であります。戦費六千五百五十萬圓、軍用民用は二百七十億圓の中、その四億圓の貯蓄を支持し、勝利の貯蓄への道に進まなければなりません。

吾々は過去一年間血みどろの奮闘に依つて、三億五千萬圓を貯蓄し取つて來ましたが、これに續く四億圓への前進には餘多の苦難の峻険路が横たはつてゐます。ひたむきな生産増強、進出の決意、意識による生活程度の切り上げ等々、凡ては四億圓貯蓄戦を勝ち抜くための一つ一つであります。吾々は奮つて止まむの戦石の決意を固めて勝利の彼岸へ通ずる苦難の悪路を克服突破し、決戦生産と決戦生活を徹底し、決戦貯蓄の完遂に島民総力を挙げて總進軍を開始しなければなりません。武力戦では御機成の下に世紀の赫々たる大戦

## 十億圓突破 の貯蓄戦果

果を収めてゐますが、戦力を支配する貯蓄戦で、戦後國民が負けたら、北はアリクシヤンから南はパロモン群島に至る廣大な地域で力戦苦闘してゐる。忠勇無双の將兵に對し、海に軍艦がありません。

吾々は如何なることがあつても、貯蓄戦に負けてはなりません。三度の飯を二度に減らしても、戦後皇國民の保持と榮譽にかけて必勝不敗の國民貯蓄を實踐し、貯蓄完遂を以て敵軍降参の中に日夜奮闘する前線將兵に感謝するのであります。お互に前線將兵の心を心として言行一致、貯蓄報國の一點に結集して貯蓄で赤誠を披瀝しなければなりません。

支那事變から大東亞戦争へ擴大してから、本島に於ける國民貯蓄運動は猛烈に展開され、官民一致の努力と島民の時局認識の徹底と、戦後奉公の熱意に依り島民総力の結晶たる貯蓄戦果は驚くこと勿れ十七年度迄の累計では待望の十億圓を遂に突破しました。督府ではこの劃期的戦果の收獲を記念する爲め、六月下旬に本島國民貯蓄十億圓突破記念大會を開催することになりました。

四億圓貯蓄の完遂を期し併せて戦後島民の開眼、士氣を喚起して決戦貯蓄の實踐を促進する見地より、高橋海軍大將を招聘して、全島各市街に貯蓄進軍を激励する講演大會を開き、簡素多彩なる行事を行ふことになりました。吾々は餘暇があれば努めて隣組の講演會へ赴きませう。今月の常會徹底事項には「必勝

十億圓突破の貯蓄戦果

年度別目標額	貯蓄実績
十三年度	五,一〇〇,〇〇〇
十四年度	一〇,一〇〇,〇〇〇
十五年度	一〇,〇〇〇,〇〇〇
十六年度	一〇,〇〇〇,〇〇〇
十七年度	一〇,〇〇〇,〇〇〇
累計	四〇,〇〇〇,〇〇〇

低物價と生産増強

政府は去る四月決戦下に

於ける國民經濟の安定並に戦力の飛躍的増強を圖ることを目的とする緊急物價對策要綱等を發表しました。今回の緊急物價對策のねらひは補給金制度の整備活用と新しい構想に基づく價格報奨制度の創設であります。

補給金報奨制度は國家計畫に基づく特定重要物資に戦時生活必需物資の生産者に適正生産者價格を保障すると共に、特定物資の増産を遂行した者には、特別な報奨措置を講ずるものであります。價格調整補給金制度とは物資別に價格調整機關を整備し、同機關が生産者から適正利潤を含めた適正生産者價格を以て買取り、需要者價格との差額を補給金として政府から受取るものであります。例へば或る物資を十圓で買入れて八圓で賣つた場合、その差額二圓は補給金として補助されます。之を三重價格制と

謂はれてをります。價格報奨制度とは生産増強の殊動甲に對する價格面の金現動向であつて、基準生産量を超過する増産（或は基準生産期間の短縮）に對して割増價格を認める特別報奨と生産原價の低下に對して特別利潤を與へると云ふ二般報奨の二種があります。

特定物資の生産者に對しては適正なる生産者價格を保障するが、需要者價格は大體現行水準を維持する措置を執り、低物價政策を徹底して堅持すべき確固たる政府の根本方針が闡明されてをります。多年懸案の「低物價と生産増強」の二律背反の調整が、今度の對策措置に依り一應解決の曙光を齎らし、適正なる生産者價格の保障に依り、生産阻害の原因を價格面より排除することが出来ました。從來の低物價政策は物價を九

一八で釘付け、全面的騰貴を抑制するためには、確かに有効でありましたが、餘りに機械的に固守された點が多々あるのを感ずられたところが多々ありました。ところが今回適正なる生産者價格が保障されることになつたのでありますから、生産戦士は安心して増産に挺身出来る譯であります。創意と工夫とに依り生産能力の向上と原價引下げに努力した生産者に對し、増産の熱意に對する價格面の國家的報奨として、原價低減の場合に一定の報奨利潤を與へ計畫生産を越えて増産を實現した場合は、一定の割増價格を與ふることになりま

米作者に親心

戦時下最も増産を緊急とする米穀の引上げに關し、政府では緊急物價對策要綱に則り前述の價格調整補給金制度を活用して、十八年度産米に對し補給金の交付並に價格の改訂を斷行しました。

今回の米價對策は全く努力と肥料其他生産費の實質的値上りに依る生産費を補償するもので、生産者の「安居樂業」の四字がはじめて生き生きと動き出したのであります。内地に於ける米穀對策を簡略に説明します。

米穀價格調位一石

改訂	引上	價格	程度
標準買入價格	五〇	五〇	一
生産獎勵金	五〇	一〇〇	二
補給金	一〇〇	二〇〇	三
實質上の政府買入價格	一〇〇	三〇〇	四
標準賣出價格	一〇〇	四〇〇	五

十八年度産米の實質上の政府買入價格は、石當り四十九圓から一乘十三圓五十錢を増額して六十二圓五十錢となりました。賣出價格は家計費、物價その他の經濟事情を參照し、國民經濟生活に支障を及ぼさない且つ物價の惡循環を生じない程度を勘案して、石當り三圓程度の引上げに止めたのであります。

生産者の手取りは十七年度に比べて石當り十三圓五十錢に比して僅か三圓の各増で、結局生産者は地主よりも石當り在米の生産獎勵金五圓と補給金十圓五十錢を合計に貰へることになります。

内地に於ける米價の引上げに對し、臺灣では中央に順應して昭和十八年度第二期作米から實施する豫定で、目下頻りに具體策を攻究してをります。米價の引上げに依る農家の収入はたしか

に増加しますから戦時米作  
者は増収額を上げて國民貯  
蓄に振向けるやうに努めな  
ければなりません。

三百萬の本島農家は政府  
の親心を心とし進んで米穀  
の増産と供出に挺身すると  
共に、三百萬の消費者たる  
本島住民は當局の意圖を理  
解し、決戦生活の眞髓に徹  
して僅かな負担増加を喜んで  
甘受し、國策に協力して  
ゆくことが絶対必要なので  
あります。

### 共榮圈内物資 貿易から交易に

計畫交易の遂行と交易物  
資の價格調整を行ふ交易營  
團は、同營團法に依り近く  
力強く發足しますが、その  
目的は戦時に際し國家經濟  
總力の増強を圖る爲め、交  
易の統制運営を爲すと共に  
重要物資の貯蔵を確保増強  
するのであります。大東亞

戦争の勃發により我が國の  
貿易情勢は一變しました。  
米英依存、外貨獲得の爲め  
の貿易より大東亞共榮圈内  
に於ての物資の交流に即ち  
「貿易」から「交易」に急  
轉したのであります。

戦力増強の一環として物  
資計畫の完遂を圖らねばな  
りません。そこで刻下の諸  
要請に應じ計畫交易完遂の  
一元統制運営機關として  
の交易營團を設置する事に  
なりました。重要物資管理

營團の業務は最近の物資需  
給状況に鑑み、近來益々交  
易部門と密接となつたので  
この際交易營團に重要物資  
管理營團の業務を継承せし  
めることになりました。共  
榮圈内各地域の物資は我が  
國よりもすつと高い。低物  
價政策の堅持は我が國戰時  
經濟營團の基礎でありませ  
ん。各地域の高物價の我が  
國への波及は、断乎とし

て遮断しなければなりません。  
この高物價の波及を遮  
断しつゝ計畫交易を遂行す  
るには交易物資の價格調整  
を迅速圓滑になさねばなり  
ません。

即ち輸出貨資に就いては  
現地の物價事情を參照考慮  
しつゝ可能な限度で差益金  
の増収を圖り、之を以て必  
需輸入物資の價格差損金を  
補填し、以て價格差損補償  
のための國家的財政的負擔  
を極力軽減せねばなりません。

本營團の輸出入の相手地  
域の範圍は南方占領地を除  
く開東州、滿洲、中華民國  
佛印、泰、獨逸及び伊太利  
をその交易業務の對象地域  
とし、交易物資の運搬船給  
業務に就いては營團が自ら  
業務を行ふ場合と營團が取  
引をこれを受すも現貨の荷  
動きに就いては關係業者を  
實務担当者（荷役人）とし  
て活用する場合と、營團が

## 勝ち抜け大東亞戰

白 神 實

- 一、宣 戰  
今や非常時、起て同胞  
平和を亂す米と英  
遂に起れり、大東亞。
- 二、出 征  
伸るか反るかの世界戰、  
宣戰の詔勅、畏しや  
忘るゝなゆめ、今日の日を。
- 三、皇軍の威力  
大戦果  
威力を見よ、皇軍の  
布哇の奇襲、神の技、  
よくも撃ちしぞ、敵主力、  
敵前上陸内海戰、  
香港牙城の夢破れ、  
グアム島、ウエーキ我に歸  
す。
- 四、必勝不敗  
「ライ半島蹂躪して、  
新嘉坡も落ちにけり、  
ビルマ、比律島、蘭印と  
驚天動地の勝開は、  
驚愕すよ、四方の海  
永久制覇せよ、太平洋。

### （駱水源）

營に協力を惜んではなり  
ません。（五月十五日）

（九頁より續く）  
ての人を、唯此處だけでなく、  
世界中を成す行軍、これは神の  
御心であります。英荷を、世  
界を、皆天御中主神の分靈と  
しての神性に還すこと、それ  
ぞれ處る處に處りて、大根本  
を中心として彼我一體となる  
ことであります。世界中を成  
ひ清めて美化するこれが八紘  
一宇の精神、今日の言葉で云  
へば世界新秩序建設の精神で  
あります。

大敵については尙研究して  
下さい。此の行事は六月と十  
二月の海の二度、即ち半島の  
加勢を成す國家の大行事であ  
ります。

とすの團體ではなく、國策  
代行機關の重大使命を負荷  
されてをります。同會の費  
用として輸出買取價格並に  
委託輸入價格に對し一律に  
一・五%の統制手数料を徴  
收してをります。貿易會が  
自ら交易業務を行ふことが  
出来るが、從來の貿易業者  
の生活安定を期する見地よ  
り業務を彼等に委託して行  
ふことになりました。即ち  
貿易業者は貿易會の委託  
で輸出入の仕事をするの  
であります。從來の貿易業  
者は昔のやうな自由主義的  
な利潤を追求することが出  
来ません。しかし貿易業者  
の生活安定を保障する一定  
の手数料が支給されます。

史的轉換期に直面した貿  
易業者は、決戦時局を深く  
認識し、國家奉仕の精神を  
昂揚して交易の圓滑なる運

- 五、破 邪  
日本は神國、皇國  
經濟封鎖も何のその、  
脆くも潰れし包圍陣、  
見よや、開戦誰が責ぞ、  
ルーズヴェルトよチャーチ  
ルよ、
- 六、想へ戦線  
あな勇ましいの將兵よ、  
君萬歳の聲最後、  
日本男子の華と散る、  
想へ戦線、戦後の土、  
寝もせず聴けや快情報、  
涙に鬼神も咽ぶべし。
- 七、銃後要公  
節け、護國の宮柱、  
永久にと祈る戦勝に、
- 八、黎 明（新秩序）  
黎明正に近づきぬ、  
樂土築かん大東亞、  
理想輝く新秩序、  
開も望し、日・獨・伊、  
不斷の階調高らかに、  
進め、正しく勇ましく、  
作業者日神實氏は多年奮  
闘の國民教育に從ひ、特に唱  
歌の部面を擔當し、これが國  
民精神の上に作用するものと  
ころ極めて多いことを身を以  
て體驗した人、向この歌は當  
分の間軍歌ア、來れや來  
れ、日本陸軍等の語にて歌は  
れた。

本誌を慰問袋にお入れ下さい

關係業者に業務を委託して  
行ふ場合が有ります。

同營團の取扱ふ交易物資  
は三部特殊物資（軍需關係  
物資等）を除く多種多様の  
全物資であります。交易上  
生ずる輸出入價格差益差損  
は悉く爲替交易調整特別會  
計に歸屬し、價格差益は價  
格差益納付金として同會計  
に納付し、差損は同會計よ  
り價格差損補償金としてそ  
の交付を受けることになつ  
てをります。

本島では同營團の分團を  
設置しないで交易營團と同  
一の機能發揮し重大な使  
命を遂行する貿易會が  
全面的に本島交易の一元統  
制運営を圖ることになり  
ました。貿易會の營  
業務は殆んど交易營團と同  
じで、交易に依る價格差損  
益は舉げて爲替交易調整特  
別會計に歸屬することにな  
つてをります。

貿易會は營利を目的

## 防空講話

各家庭、防空群の  
空襲に對する備へは？

(五) 兵務局長 青島 勝三

燈火管制設備としての遮光隠蔽に使用する材料は、極めて不燃性又は完全に耐火処理を施したものである。且つなるべく光の透過率の少いものを使用する。とが望ましく、普通用ひられる種類について、その透過率から所要重ね枚数を算出すれば次のやうになる。

材料名 遮光率

金属板 木板	1
黒洋布	1
黒ガスマニラ	1
黒天竺木綿	2
馬糞紙	2
雨面黒新開紙	3
雨面新開紙	3
雨面黒新開紙	3

り、本島では今まで一部乙地域であつた所も最近全部甲地域となつたに於て、滅光且遮光だけでは前述のやうに光度が小さく制限される結果、暗くて不便が多くなつて、今後當然推想される連綿或は長期にわたる場合に備へ、使用上必要なる一部の室に對してはどうしても隠蔽の然も間に合せでない設備をせねばならない。

隠蔽の様式には、引幕式、巻込式、取外式等色々あり、又戸等があればそのまゝ利用すればよいが、何れにしても地質の厚い材料で室を覆ふ關係上、自然室内の換氣、通風が悪くなる、殊に暑い期間の長い本島では特にこの點について

留意が肝要で光の漏れないやうにして孔を設けるか画を取附け、或は鐵製式暗幕を用ひる等の工夫を要する。

其他天窓に對する設備を怠らぬこと、幕又は雨戸等の合せ目、鼠目、筒穴等からの漏れや出入口に於ける出入に際しての漏れ等に對しても細かく注意をしなければならぬ。

坪未満は一〇〇リットル以上、延坪一五坪以上は概ね一〇坪につき五〇リットル程度(宛増加)の最小限は、前にも述べた様にそれだけあればどんな場合でも充分と云ふのは決して無く、應急的に幸うじて火勢を抑へ得る程度の場合も多いと推想されるから、之を捕つて完全に消火し、或は火の手が大となつた時に延焼しない様防止する爲には、どうしても各奉公防空群で更に一立方尺(約五五五斗)以上の水量を準備して置くことが是非必要である。量が大きいから、容器の準備には資材の關係で困難を伴ふことと思はれるが、既設の池や流等が適當な所あれば、いざと云ふ場合にすぐ利用出来る様に設備すればよく、又適當な空地に次のやうな統制物資を殆んど要しない簡易な方法も考へられる。

1. 防火用設備、資材  
(1) 水  
各家庭では非備へて置かねばならない(延坪一五

2. 各防空群の整備  
各部消燈の豫想される所では急な消燈に備へ、蠟燭又は懐中電燈を家庭の誰にでも分り易い便利な場所に置いてこれに對する遮光用具をも併せて必ず準備しておくべきである。

(2) 梯子  
二階や屋根での防火、消防や飛火の警戒等に使用の際、長さは群内の家屋の高さ、構造等を標準として決めればよく、普通大體五米位が適當である。平常使ふものとは違ひ水の入つたバケツを運る場合等には

た水を豫め準備しておくことも忘れてはならない。  
2. 救護資材  
各家庭のところで述べたものの中、各家庭で整備し難いものは非防空群で整備しておくことが必要であり、更に副本等も出来るだけ準備しておく方がよい。

3. 監視設備  
防護監視所は防空群に於ける防空活動上の眼や耳の働をなす重要な施設であつて、監視員が敵機員の行動、燒夷弾の落下状況等を見張つて速に群内に知らせ、そ

れによつて待避、防火其他の活動を開始、指揮されるのであるから、出来るだけ各防空群で設置する必要がある。位置は出来るだけ上空と群内全部の見透しの利く場所であることを要し、適當なところに陸屋根や物干台等があれば、それを利用し簡単に設備出来る数群を見透し得る適當な場所があれば、數群協力して其の一ヶ所を共同の防護監視所としても差支ないが、その場合には各防空群の連絡が敏活に行はれるやうに豫め考へておくことが肝要である。

向監視員は危険にさらされるから任務を遂行する場合もあるから、爆彈の破片や高射砲彈の破片等無差別な被害を受けぬ様に周囲、屋根を適當に防護することも忘れてはならない。それが爲に鐵兜が入手出来れば整備が望ましく、又群内に状況を周知する爲にガホンを用意しておくことも必要である。(3)

何人も乗るから、それだけ丈夫なものであることを要し、從つて竹の産地附近で見られる親竹をくり抜いて作つたものは、その所が弱く、訓練中に其所から折れて怪我人を出した事例があるから避けた方がよい。

(2) シヤベル  
各家庭の整備状況を検討した上、不十分であれば防空群で是非整備することが必要である。

(3) 隘用ポンプ  
大型燒夷弾の公算が多くなり、從つて防火の困難が一段と加はることが豫想されるので、充分なる水の準備と共に出来るれば各防空群で二人押程度の小型隘用ポンプの整備が望ましいが、費用其他の關係で速急に期待することは難しい。然し救護防空共同で整備することが是非望ましく、更に型も出来れば六人乃至八人押の大型隘用ポンプを整備すること、

規格 大型毎分一八〇立放水量 小型同 四〇立 のやうに放水能力が小型の約四五倍となるから最悪の場合に二層役立つことになる。但しこれに相應し

大塚三七雄著  
明治維新と獨逸思想

日獨交渉史の最新研究  
明治維新の特種研究書 II



連載  
古事記物語  
喜久元八郎  
喜宮由晴光

大國主神、またの名は大  
八牟遲神とまをし、またの  
名は葦原色許男とまをし  
またの名は八千矛神とまを  
し、またの名は國玉神  
とまをす。併せて名五つあ  
り。

蛇の室屋  
逃れて紀の國に参ります  
と、大屋屋古の神のおつし  
やいますのに

でになりました  
と申されました。そこで  
大神も出て御覽になり、  
「これは葦原色許男と謂ふ  
神だ」と  
とおつしやつて、喚び入  
れて、蛇の二ばいる室に  
寝させました。このとき御  
紀須勢理姫の命が、蛇の領  
巾をその夫に授けておつし  
やいますのに  
「その蛇が真方に咥ひつか  
うとしたならば、この領巾  
を三度振つて打ち擽ひなさ  
いませ。」  
と言はれました。それで  
教へられた通りにしました  
から、蛇は自然に静まりか  
へつて、命は安らかに寝て  
おいでになりました。  
あくる日の夜は、與公と  
蛇との室にお入れになりま  
したものを、與公の領巾  
を授けて前の様に咥ひをさ  
致へになり、それから返つて  
父君に  
「大蛇麗はしい神様がおい  
でになりました。」

天の沼琴  
斯くて御紀の須勢理姫は  
御製式の道具を持たれて哭  
きながらおいでになり、そ  
の父の大神はもう死んでし  
まつたと思ひになつて、  
その野の中においでになる  
と、大國主の命は、その矢  
を持つて奉りましたので、  
家に連れてゆかれて大きな  
室に喚び入れて、頭の風を  
取らせました。  
そこでその頭を見ると、與  
公が「ばい」をります。この  
時御紀が掠の木の實と赤子  
とを夫の君に與へましたか  
ら、その木の實を咥ひ破り  
赤土を口に含んで吐き出さ  
れると、大神は與公を咥ひ  
破つて吐き出すとお思ひに  
なつて、御心によく養ひな  
くれると感心にお思ひにな  
つて、よい御氣遣で寝てお  
しまひになりました。  
そこで大神の髪を握つて  
その室の屋根の横木に結び  
つけ、大きな嵐をその室の

戸口に塞いで、御紀の須勢  
理姫を責はれ、大神の大刀  
可矢に玉の飾のある、天の  
沼琴を持つて逃けておい  
でになる時に、その琴が樹  
に觸れて、高く妙なる音が  
天地に響きました。  
そこで寝ておいでになつ  
た大神が聞いて、大變お驚  
きになつて、その室を引  
倒してしまひました。併し  
横木に結び着けてある髪を  
解いておいでになる間に、  
命たちは遠く逃けてゆかれ  
ました。大神はこの時黄泉  
比良坂まで追つておいでに  
なつて、遠く望まれる大國  
主の命を呼んでおつしやい  
ますのに、  
「そのお前が持つてゐる大  
刀や弓矢を以つて、大勢の  
神をば、坂の裾に追ひ伏せ  
河の淵に追ひ撥つて平け、  
自分で大國主の神となり、  
また國玉の神となつて、  
その私の女須勢理姫を正妻  
として、宇迦の山の山木に

れておいでになりましたけ  
れども、御紀の須勢理姫を  
恐れて、生まれた子を木の  
俣にさし挟んで、因幡の國  
に返つてしまはれました。  
大國主の命は高志の國の  
沼河姫を嫁はれました。ま  
た彼の上には宮柱を太く立  
て、大空に高く棟木を上げ  
て住めよ、と奴め。  
と、叫ばれました。大國  
主の命の國土平定の大業の  
艱難を思ひ、最愛の女須勢  
理姫との別れを懐ひ、大神  
須佐之男の命の  
熱く潤む涙の彼  
方に御二人の姿  
は消えました。  
そこで大國主  
の命は、その大  
刀、弓矢を持つ  
て、後の大勢の  
神を追ひ撥ふ時  
に、坂の裾毎に  
追ひ伏せ、河の  
淵毎に追ひ撥ひ  
限なく平定され  
て、國を作り始めなされま  
した。  
さて彼の八上姫は、前の  
約束通りに、御結婚なされ  
ましたが、その八上姫は連



波寄る磯に 脱ぎ棄てま  
した  
翡翠の羽色の 青い衣を  
びつたりと 着けてはみ  
たが  
水鳥のやうに 首をか  
けて見れば  
袖を擧げては 是はよく  
似合ひます  
美しい男より 道々の女に  
慕はれませう  
愛しの人よ、吾が妻の命  
よ  
群鳥のやうに 皆を連れ  
て往つたならば  
候鳥のやうに 皆を退い  
て去つたならば

泣きませぬどいお前は言はうとも  
山の麓の とり残された  
一本薄  
項垂れて お前は泣いた  
らうよ  
朝雨の露に 寂しく消え  
入りさうに 戸口に立  
ちませうぞ  
若草のやうに 匂やかな  
愛しい 吾が妻の命よ  
そこでその御妃が、酒盃  
をお取りになり、立ち寄り  
捧けてお歌ひになつた歌は  
八千才の 神の命よ  
妾が夫大國主 貴方がこそ  
立派な男で いらつしや  
いますから  
見わたす島の 御々 磯の  
御々  
何處にあつても お氣に  
召した  
美しい妻を お持ちにな  
りませう  
けれども妻は、弱い女で  
すから

貴方を推して、男は無く  
貴方を除いて、夫もござ  
りません  
(哀れと思召し) お留り  
遊ばせし  
文の帷帳の 轆らかに垂  
れ下り  
絹の姿の 柔くさやぐそ  
の下に  
ゆるくお寝みになつ  
て下さい  
いさこの美酒を 聞し召  
せ  
そこで盃を取り交し、お  
互ひに和解されて、大國主  
の命は、お留りになりました  
た。此の歌は神話といふ歌  
曲の例です。

久延彦  
さて大國主の命が、出雲  
の御大の御崎に、おいでに  
なつた時に、波頭を草の  
實を割つて船にして乗り、  
蝦の皮をそくり剥いで着  
物にして近寄つてくる小さ  
な神様がりました。

「そこでその  
名を聞きました  
たけれども答  
へません。ま  
た御従者の神  
達にお尋ねに  
なりましたけ  
れども、皆存  
じ上げませ  
ん」と答へま  
した。  
ここに、蟷  
螂が参り出  
て申すので  
は、これは  
「久延彦がきつと知つてゐ  
るでせう」  
と言ひましたので、直ぐ  
に久延彦を呼んでお尋ねに  
なると、  
「これは神産靈の神の御子  
で、少名彦那の神です。」  
と答へて申しました。依  
つて神産靈の神に申し上げ  
ました所、  
「これは本當に私の子だ。  
子どもの中でも、私の手の

供から濡れて落ちた子ども  
です。そなた素原色許男の  
命と兄弟となつて、この國  
を作り堅めよ。」  
とおつしやいました。そ  
れで、それから大國主と  
少名彦那と、御二人の神が  
並んで、力を協せて、この  
國を作り堅めたのでありま  
す。  
後にはこの少名彦那の神  
は、海のあちらの常世の國  
に渡つて行つてしまはれま  
した。この少名彦那の神の  
ことを申し上げた久延彦と  
いふのは、今に山田の案山  
子といふ者です。この神は  
尾は歩ませませんが、天下の  
ことをすつかり知つてゐる  
神様であります。

**ガゼオ**

農藝 殺殺 虫虫 剤液

物作畜人 害無對絶

家庭害虫・家畜・家禽の虫駆滅に  
衛生必需品 是非慰問袋へ

稲・果樹・蔬菜・植木・花卉・煙草・盆栽の  
害虫 驅除に

元 田 田 田 田  
會 商 盛 共 合 合  
二 可 邸 太 久 北 區 東 市 府 大

### 結婚の相手は？

まだまだ 高い 結婚の年齢

皇民奉公會中央本部生活部に  
於ては去る三月、盛岡市を除く  
全島の十八年度女学校卒業生並  
びに植種俱樂部員を對象として  
結婚に對する思想調査を行つた  
が、この程その統計が出来上つ  
た。総人員は内地人一、八九九  
名、本島人一、四三七名、計三、  
三三六名で、先づ

〔結婚の時期〕に就ては、  
二十二歳と二十三歳とが既婚的  
に多く、内地人側は全體の六十  
三パーセント、本島人側は五十  
七パーセントを占めてゐる。又  
相手側の男子に對する希望は内  
地人側では二十七、八歳が六〇  
パーセントで首位を占め、本島  
人側は二十四歳と二十五歳が最  
も多く、全體の四十三パーセン  
トを占めてゐる。これを先に取  
附が發表した人口政策要綱に照  
らすと、内地人と女子は、尙

も増産戦士技術者に對する關心  
の薄いのには怪かほしい。本島  
人側の特殊現象としては醫師と  
實業家を希望する者が特に目立  
つて多いことである。

〔相手の収入〕に就ては、  
先づ内地人側から見ると、八十  
四乃至百圓が二十八パーセン  
トで首位、次は「生活出来る程  
度」と記した者が廿四パーセン  
ト、三位は百圓乃至百二十圓で  
二十パーセント、中には内地人  
が僅少なが見受  
ける根拠によるもの  
か不明であるが、  
依然として貧乏の  
夢を追ふ經濟的  
性があつたとたな  
いののは、残念であ  
る。本島人側は六  
十圓から八十圓を  
希望する者二十五  
パーセントで、こ  
れが首位を占め、

次に六十圓から百圓が二十二パ  
ーセント、百圓から百二十圓が  
十四パーセントの順になつてゐ  
る。生活様式の差にもよるで  
あらうが、決然生活の切下げに  
ついでには、本島人女性が、かへ  
つて固く、決意を注ぐめかしてゐ  
る。

〔相手の學歷〕に就ては、  
内地人を通して、中等學校乃至  
專門學校がその大部分であり、  
徒らに學歷ある者のみを追つて  
ゐた一昔前とは大分變つて來て

〔その他〕 係累と同居の發  
否については、何れも發成者が  
大部分を占め、我儘娘もあとを  
たち、南方に對する關心に至つ  
ては、内地人も九十三パーセ  
ントであり、何れも南方進出を  
希望し、滋養女性のたぐひしい  
意氣を反響してゐる。

核結の 参考資料

大徳乃道健康相談部

# 電波は戦ふ

我が海外放送の話

評時オジラ

「最」近何が愉快だと云つて、日本本土空襲の詳報「発表」に於ける日本海外放送の凱歌ほど痛快な話はない。

外電によると去る四月十四日、アメリカ戦時情報局長官ブライスは、日本本土空襲一周年に際しその詳報を発表すると公表した。

ところが十六日夜になつて「陸軍省が詳細発表に同意を與へぬから発表は何時になるかわからぬ」と前言を覆した。それに對し國民の間には不滿の聲が昂るや十八日になつて「東京空襲機は空母から飛び立つたものである」とたゞ之れだけの事を中立的に發表したのである。このやうにアメリカ當局がまごごしてゐる間に

先手を打つた我が谷津大本營報道部長は四月二十日「アメリカ當局に代つて」その詳報を發表し、その全文は同夜八時からアメリカに向け放送された。あつてたのはアメリカ當局である。

翌二十一日になつてやうやくその詳報なるものを發表したが、それこそ本當の後の祭であつた。然かもその發表たるや隨所に我が報道部長談と符合し、我が大本營報道の正確無比を裏づけるといふ逆効果をさへ生じたのだから愈々以て痛快であつた。

然し日本の海外放送の正確無比は今に始まつた事ではない。又その對敵電波戦に於ける勝利も今度が始めてではない。特に大東

亞戰爭勃發以來は皇軍の舉げる大戦果と相俟つて、電波戦によつて擧げた大戦果は目覚ましいものがあつた。

このやうに元來宣傳下手と云はれて来た日本が、海外放送に於いて敵を壓倒しつゝあるのは何故であらうか。

——一言にして云へばそれは皇軍將士の力といふ事が出来る。日本の放送は事實を事實として發表する。米英の放送は宣傳の爲の宣傳で嘘が多いと云はれてゐる。然し、いくら米英でも始めから嘘が云ひだりわけではあるまい。然し、かう取つて戦が續いては、戦前如何に正確を誇稱してゐたBBC(英國)でも、さうさう負けたりはした。さういふ負けは勝つた勝つたに景氣のいい嘘の一つもつきたかたのものが人情だ。アメリカも同様である。戦前アメリカは對外放送従事員八百名

を有し、年三千万冊を政府が宣傳に投じてゐたさうだが、その形大な組織を以てしても、都合の悪い事は例の頻被主義でしらはつた。このやうに「小出し發表」で世界的に有名になつたりして、遂に嘘つき放送で有名な重慶のお株をとつてしまつた。

一如一何に技巧を弄しても結局嘘は嘘であつて事實にはかなはない。日本の海外放送が世界の耳を集めてゐるのは結局日本陸海軍によつて擧げられる大戦果といふ嚴たる事實が物を云ふのである。そのまゝを云へば、それが直ちに有力なる放送となる。ところが我が海外放送の力強さがあるのだ。

然し、それだからと云つて我が海外放送の苦心努力を否定するのではない。

「我」が海外放送が昭和十年初めて北アメリカ西部向けに電波を送つてから今

年はもう九年目である。その間の逐次發展しつつあつたが、大東亞戰爭勃發によつて更に一段と飛躍し、現在東京だけでも一日の放送延長時間六十數時間、使用語は日本語を始め、獨逸語、伊太利語、英語、佛語、スペイン語、ポルトガル語、支那標準語、廣東語、福建語、マライ語、タガログ語(比島)泰語、和蘭語、ビルマ語、ヒンズリ、ウルドゥ、タミール語、(印度)トルコ語、イラン語、アラビヤ語、露語の二十二ヶ國語に及んでゐる。

そして一日の中、午前零時三十分から翌午前零時十五分まで文字通り晝夜をわかつた活動である。我々國民がねてゐる間も、さめてゐる間も、我が海外放送は「聲の彈丸」として直接敵國民を壓倒し敵國の虚偽宣傳を粉碎し、或は稱勸各國との交換放送によつて、その提携の固きを加へ、或は

又、大東亞現地住民に呼びかけ大東亞建設と大東亞民族解放の歡びを傳へる等、多様な活動によつて、正義

日本の聲を世界中に送つてゐる。やがて海外放送は東京を中心として國內にあ

つては臺灣が之に呼應し、國外であつては滿洲、支那各地、サイゴン、パナマ、南洋、パラオ等の各放送

局が日本の電波と歩調をそろへて前進しつゝある。又皆て敵性電波を發してゐるマニラ、昭南を始めその他

南方各地の敵性放送局が我が軍政下に再生して新秩序建設の響を電波にのせてゐる。更に又獨逸も遠く歐洲から大東亞の空へ參加してゐる。電波による大東亞共榮圈、偉なる我が海外放送、而して皇軍の奮戦は今後益々世界の耳をして日本の海外放送に集中せしむるであらう。

字を横書きにする時、右から書くのが正しいが左から書くのが便宜か、つまり左横書きがよいか、右横書きがよいかはつきり決められるなら決めて欲しいといふ聲が高まつてゐる。

實際にスターにせよ、紙芝居などにせよ、店の看板、停車場の駅名、その他いろいろ印刷物などを見ても、右がき、左がきと混然として居ない。混然と混然と混然と。こんな混然は實際どうかと思ふ。そこで皇民奉公會宣傳部では、いろいろ研究調査の上大體次のやうに判斷してゐる。即ち政府の方針が決まるまでは右がきを正しいものとする。但歐米の文字や算用数字等が入つた文章だけは便宜上左がきにする。

「今日の横書き」の混乱  
左と右といつれか

は元來日本傳統の風習であり、現に書物の如きも歐米の左横書き左表紙の夫れと正反對になつてゐる。右がき右表紙になつてゐること、第二文部省が先に右横書きと左横書きと何れを採るべきかについて審問したの對し調査會では右がきを採るべしといふ答申を出し、それが新聞に

が決定するまでは、當然日本古來の右がきでゐることが正しである。但し歐米の横書き文字やアラビア數字が出て來る文章は左がきに書くことが便宜であるので、政府の方針がはつきり決まるまで便宜的に左がきとする。第三、日本では昔から右を尚んでゐるし、

も右がきが多く、公式なもので以上の理念が徹底してゐるものは必ず右横書きになつてゐる。さらに右がきを便利とする一例に紙芝居がある。紙芝居は説明者が右手を使つて場面を右に引き抜くので、場面上の横書きの文字は是非とも右がきでないと先に見えなくなつて了ふ。云ひかへると左横書きの紙芝居なら左手を使つて左へ引き抜かぬと具合がわるい。兎に角、右を尚しとし、又右手を使つて生活して來た日本人なら成るべく横書きなどやらぬ様にし、止むなく横書きをする時は右横書きの風に據るべきで、この點は右へならふべきではないかと考へる。

尚皇奉本部から出でゐるポスター等も初めの分には左横書きのものがあつたが、今後の分は右横書きに一定するやうに申合せ

かういふ風に判斷した根拠は何かといふに、第一右書き

問題はどういふ風に解決するか

に改めよといふ最終決定は與へてゐない。従つて政府が此の體に右がきであり廣告文の如き

に改めよといふ最終決定は與へてゐない。従つて政府が此の體に右がきであり廣告文の如き

に改めよといふ最終決定は與へてゐない。従つて政府が此の體に右がきであり廣告文の如き



# 新建設回覧板

## 常会中合事項 六月

一、四億貯蓄に對し「國民貯蓄金奉公袋」  
 てめい／＼の目標額が示されました  
 之を達成するやう努力致しませう。

昨年度は臺灣の貯蓄目標額は三億五千萬圓  
 であつたのに對し、臺灣一家の熱烈なる貯  
 蓄熱はそれを完全に突破しました。本年も  
 目標額四億圓を突破するやうお互に努めま  
 せう。尙割當の總目標額は御一家だけの目  
 標で國民の忠誠心に訴へて實行して頂くも  
 のですが、組合貯蓄の方は貯蓄組合とよく  
 相談して完遂するやうに致しませう。

イ、六月から四億貯蓄達成簡易保険の島民總  
 新加入運動が實施され、又近く積立貯金と  
 定額貯金(七月)が郵便局で始められます。  
 これ等にも果つて努力を集中致しませう。

## 地方支部

皇民奉公運動  
 勸進第三年  
 初の全島各州  
 支部長會議  
 是、五月十五  
 日皇奉中央本部會議室に於  
 て開催された。當日本部よ  
 りの提出事項のうち、地方  
 支部に事務局を設け事務局  
 長配置の件に就ては特に  
 熱烈な建設的意見が續出  
 し、注目をひいた。

之は地方各支部の事務は  
 州廳職員が兼務して處理し  
 て来たが、先に青少年團皇  
 奉移管に關すること等もあ  
 り、今後傘下いろいろな  
 各種團體が統合されるの  
 で、この事務機關を強化し、

この事務局案は最善を期  
 するため、各支部長の意見  
 をまとめた上で決定するこ  
 とになつたが、これが如何  
 なる形に於て實現するか、  
 多大の期待をかけられてゐ  
 る。

尙、齊藤中央本部長は席  
 上、「皇民奉公運動に對して、  
 官吏は熱意をもつて、む  
 しろ協力ではなく、與へ  
 られた仕事としてやるべ  
 きである」と述べ、官吏の奉公運  
 動に對する更に新たな覺  
 悟をうながすところがあ  
 り、一同に多大の感銘をあ  
 だへた。

## 奉公賞

賞を贈する事に決定しま  
 した。これは五月十一日  
 皇奉中央本部會議室に於  
 て開催された。皇奉中央本  
 部會議室に於て発表  
 した。皇奉中央本部會議室に於  
 て開催された。皇奉中央本  
 部會議室に於て発表

- 戦ふ漫展覧會 皇民  
 奉公會中央本部主催「戦ふ漫  
 展覧會」は五月七日より十日ま  
 で島郡公會堂に於て開催した  
 が、流石に東京致全島漫展家の  
 優秀作品だけに各作品とも激賞  
 心拂地に致すのみならず、突  
 つて判る時局展であるため、非  
 常に關心を以て迎へられ會期  
 の入場者一萬を超える盛況であ  
 った。尙本展覧會は引續き左の  
 日程で全島各地で開催される管  
 である。
- (基隆市) 五月十八日より二  
 十三日迄の内
  - (新竹市) 五月二十五日より  
 三十一日迄の内
  - (臺中市) 六月二日より八日  
 迄の内
  - (彰化市) 六月十日より十七  
 日迄の内
  - (臺南市) 六月十九日より二  
 十五日迄の内
  - (馬公市) 六月二十七日より  
 七月六日迄の内
  - (高雄市) 七月八日より十四  
 日迄の内
  - (臺東市) 七月十六日より二  
 十二日迄の内
  - (花蓮港市) 七月二十四日  
 より三十日迄の内

ロ、六月末は賞與月です。賞與は出来るだけ  
 多く貯蓄に振り向け、國債や戦時債券を澤  
 山買ひませう。

二、敵アメリカの反攻は必至の情勢で  
 す。私共は眞剣になつて、防空陣を固  
 めて置ませう。服装も空襲があつ  
 た場合、働き易いやうに、又被害を  
 最少限度に止めるやうに充分整へて  
 置ませう。尙戦時下に於ては流言  
 は飛び易くなりやすから、之を眞に  
 受けたり、又氣附かずに飛ばしたり  
 することの無いやう警戒致しませ  
 う。

いま支那奥地にある米寇空軍は暗躍してゐ  
 ます。又北からも海上からもゲリラ戦が狙  
 はれてゐるから全く油断大敵です。又知ら  
 ぬ間にテロを飛ばしてゐませんか。流言を  
 やつては居りませんか。これは戦争をして  
 る今日では一番慎むべきことです。でた  
 らめのテロを放つことは敵側の術策に乗る  
 ことです。斷然氣をつけませう。

## 手帖

「配  
 給と  
 世話  
 役」  
 と何  
 となく  
 話題に上りさうな題目だ  
 と思つてゐると、この間の  
 新聞に出た。「様しか  
 らん世話役」として配給品  
 に對し世話役としての「役  
 徳」を食つてゐることが判  
 つたのです。▲班に對して配  
 給品が届けられた場合、そ  
 れを班内の各世帯へ配給す  
 るに、世話役自らに當る  
 といふのが誤解を招く原因  
 になるのだ、その點は世の  
 世話役たる者は十分慎まね  
 ばなりません。それならど  
 うしたら宜いかといふと、  
 班内に配給の月當番を二人  
 くらゐの設けておいて、配給  
 品が届いたら配給當番に來  
 て貰つて、世話役(又は世  
 話役の妻或は家族)は立會ひ  
 の上、當番に配分して配給  
 して貰ふ様にすれば最も公

平であり、苦情も出ず、誤  
 解も招かずに済みます。▲こ  
 んな詰りぬことで班内に風  
 波や感情の嵐が起つては困  
 りますから、よく注意し申  
 合せを行つて圓滑にやるこ  
 とを希望いたします。▲毎月  
 の常會の中合事項や傳達事  
 項の中には、かなりむづか  
 しい事が書いてあります。  
 少しむづかし過ぎるといふ  
 説も出てきます。御尤もだ  
 ら思ふが、臺灣は未だ決り  
 切つたことを一通りは申  
 合せていかねばならず、時  
 局の内容を判つてもらふた  
 めには少しむづかしい事柄  
 をも取入れていくほかない  
 ので、痛し痒しの感があり  
 ますが仕方がありません。▲  
 そこで是非お願いしたいこ  
 とは、このむづかしい中合や  
 傳達事項を部落や班の人々  
 にお話される時は、できる  
 だけやさしい言ひ廻しで平  
 易にわかり易くお話しして  
 いただきたいことです。「人  
 見て法を説け」とお釋迦様

も云はれてゐることだし、  
 相手の知識や時局認識の程  
 度をよく呑みこんでその人  
 達にわかるやうに巧みに説  
 き聞かせていたゞくのが名  
 世話役であり、部落當會長  
 といふことになりました。▲わ  
 等の奉公班のお手帳として  
 十七年度の國民貯蓄におい  
 て三億五千萬圓の目標を優  
 に突破したことを是非とも  
 茲に挙げねばならぬ。これ  
 は皆さん私ども本當に一生  
 懸命にやつた賜ものであ  
 り、特に臺灣一家の奉公  
 班が、實によく國民貯蓄を  
 していただいたおかげです  
 ▲しかも支那事變の翌昭和  
 十三年に初めて國民貯蓄を  
 開始してから、十七年度ま  
 でで臺灣は何と十億圓の國  
 民貯蓄を見事にやり遂げ十  
 億圓を優に突破したので  
 す。これは戦時下、大變な  
 難しき喜ばしい臺灣住民の  
 御奉公振りでです。▲それで何  
 か記念のお祝ひもあるかも  
 知れませんが、然し過去の  
 成績に安心して昭和十八年  
 度の四億圓にヒビが入つて  
 はいけません。六月は賞與  
 月でもあり、國野の方でも  
 大いに能率を擧げるやうに  
 致しませう。

### 軍都高雄の

## 戦ふ女性群

### 家庭内職組合

### 告報地現

高雄市では、大東建設の礎石となつた戦後軍人軍属の遺族たちに對し、授産と授産の目的を果すため、會社の肝煎りで、昨年十月十六日に家庭内職組合が設立された。

〇この組合は、親や兄弟、或は夫、子供を餓の御前に捧けて、一家の柱石を失つた遺族層の生活力増進に活用する一方、これによつて得た収入で生活に潤いをもたせようとするのが、出征軍人軍属の遺族には、出征軍人軍属の遺族は云ふまでもなく、戦後を語る婦人たちが、一刻でも安閑として居つては申し譯がないと云ふこととで一般の家庭婦人たちが、

活が出来ぬものでも、一人の遊休者も許さるべきではない。老いも若きも、亦階級を問はず、戦後を生きる国民の大きな勤めとして、生産の増進にそれだけの技能に即して挺身しなければならぬ、時である。家庭の内職こそ、国民皆労働の熱意を如世に示す最も身近な手段の一つであらう。

#### 〇仕事の手始めに

高雄の印刷同業組合の好意により、封筒張りをした。封筒張りは比較的簡単な作業で、僅かな設備と数時間の練習で、大人でも子供でも直ぐに能率をあげる事が出来る。それだけに手間は、大變に安いと云ふ缺點もあり馬鹿らしくなつて、止める者が居出るのでなく、たれ一人として苦情を云ふ者もなく、数日間のうち十萬枚を見事に仕上げた。これが動機となつて、各種の事業會社とか、お役所などからもどしどし注文があつたため、昨年十二月一杯に約七十萬枚近く仕上げることが出来た。大變に感謝されたのである。現在十五

#### 〇作業の種類は

なか山山あるが、極く手だつたものだけに就いて云ふと、組合員の中で女学校を出た方が十人程、日本印刷の好意に依り、原稿印刷の講習を受けたが、今日では立派な技術になり、小冊子やチラシなどの作業に、めきめきと上達ぶりを見せている。

#### 〇遺族の方には

手間は比較的安い仕事を與ふるやにしているが、一般の間に賃金に對する不平と云つたことは少しもなく、實に氣持よく仕事に奮出した結果、僅か二

お正月を迎へると云つた成績であつた。

洋服の裏返しとか、解きものなどの注文もひつきりなしにあり、シャツとか肌着類の縫ひなどに困つてゐる獨身者から、物産奨励と更生のためにも、縫ひものをやつて呉れないかと、熱心な希望もあり、ミシンは持つてゐるけれども小さな子供があるもので、新しいものも裁縫より縫ひものをやらせて貰ひ度いと云ふ組合員も相當にあるので、市民の要望に答へて、やがてこの方面の仕事にも手を染めるやうになるであらう。組合員の中で、出征軍人軍属の遺族には、ミシンなど、特別の配給が考慮されてゐる。仕事を始めた頃、今までは内職したことのない人ばかりで、不馴れのためか、手間は少額で昨年十二月までは一人一箇月平均すると十五圓位の収入であつた。

で創りあげた組合であるから、今後仕事の範圍を擴げるには、種々の施設も必要であるが、これは授産指導事業として地元の高雄市民の理解と援助に依り、何とか目算がつくものと考へてゐる。

次に、組合員は一日おれ位の時間を内職のために働いてゐるかと云ふと、どちらの家庭でも同じ様に、それ／＼子供の世話から炊事、洗濯、それに掃除や整頓もしなければならぬので平均すると八時間位であらう。組合が創立した當時は一箇月十五、六圓であつたが、今日では最高六十五圓、最低二十七圓と云ふ具合に収入も増加してゐる。

これらの手間は、どんな風に使つてゐるか云ふと、内職の手間は全然手をつけず、そつくり國民貯蓄にしてゐる方が全體の三割を占めてゐる。半額を國民貯蓄に振り向け、あとの半額を生活費の足しにしてゐると云ふ方が六割三分、全額を生活動費にしてゐると云ふのは僅か七分と云ふ程度である。尚二月以來収入の百分の一を建費として

箇月と少しで組合全體として、昨年末に約四千圓の總収入を挙げることが出来たのである。

現在の組合員の顔ぶれを見るに、職界勇士の遺族と出征軍人の家族が七割を占め、残りの三割が一般婦人と云ふ割合になつてゐる。仕事もその後、各方面の理解を得て種類も、数種も増えて来た。

約二百三十名程の組合員は、いづれも自分の家にミシンを持つてゐる人が、今は國民學校児童用の純綿シャツの裁縫に全力をあげてゐる。仕立あがりの手間は一枚二十一錢であるが、一日に八枚や十枚は出来たと云ふから、子供の面倒を見ながら、一日一圓五十錢から二圓の収入があり、裁縫すれば収入もぐんと増えるのである。今まで何にもせず／＼してゐた婦人の手で、これだけの生産面が開拓されたことは、喜ばしいことである。

次に履物商組合のお骨折りにより、この正月から下駄の鼻緒の製造を四十人の組合員がやつてゐる。高雄方面では、今まで鼻緒を製造する處がなかつたが



### 時局偶成

加藤 鶴陵

今後は組合員の手で全く他の州の供給を仰がなくても、完全に自給自足することが出来るやうになつてゐる。月二萬圓を目標にしてゐるが、仕事も簡単な割に収入がよく、一日に一人二十圓から二十五圓は出来、一足分の手間は七錢乃至八錢と云ふ

通り朝から晩まで、手足が八本づつあつても足りない、嬉し／＼い悲鳴をあげながら、天手古舞をいしてゐると云ふ、朝からかな増産風景を見せてゐる。

〇二二で一寸、この組合の性格に就いて説明して置かう。

#### 一 戦時米費、誰道配分程。

想見沙場苦。 蕪孫勝肉饑。

#### 二 糧食未須憂。 所憂唯脆弱。

共業東亞等。 誓在屠蛟鱗。

#### 三 若生六百萬。 貯蓄尚虧全。

軍費彌増大。 毫釐努力獻。

#### 四 戰時菜食。 娘子手調羹。

滋味堪稱美。 人推桔梗名。

う。この組合は職界組合の係員が、全く率仕的にやつて居り、経費としては品物の運賃として僅かばかりの手数を徴収するだけで、組合員の仕事の収入に對しては、一銭も頭を割れない方針でやつてゐる。大體が、少しの準備金も持たず、裸一貫

### 新報協同

〇新報協同會 現在の自衛隊員は、自衛隊員文化の水母の下に台北市内に於て、興行の附帯中毎月一圓強台北市民に於て、興行を開催せしめ、近々新報協同會を組織することになつてゐる。なほ、當日は市内の閑散者を多数招待することに於て、協同會に於ては、協同會には、協同會を組織して、演説の向上に努めることになつてゐる。

#### (大竹文輔)

して購納することになり、三月には此の組合から五十圓の贈出をみてゐる。

この事業については、陸海軍當局の方々からも御理解と後援を頂いてゐるが、全局にまさりて創立された高雄の家庭内職組合の前途は、還ほし、高雄女性の心意氣と共に、實に洋洋たるものがある。

# 赤字

大窪六郎

△「夏は裸にかぎりますね」  
 ×「ハダカはいかん、紳士が軽しく見せる」  
 △「ハア、君でも紳士？」  
 ×「勿論です」  
 △「では伺いますが、裸がなぜいけないのです」  
 ×「昔から裸一貫といふ、一貫目では裸々しい」  
 △「何それ、君はそれでも真面目ですか」  
 ×「ところで君、これから夏になり涼やかなる夜ともなれば、隣近所の人達が外へ出て、前線の方隊さんのことを偲びつゝ、何が何でも勝ちぬことと思ひますね」  
 △「さうです、軍公班の夜の小常會なんか開かれますね。そして期せずして色々な申告せ事項なんかも出て来る」

△「ところで君は國民として此際こんなことをやらうと考へてみたことありますか」  
 ×「考へてみたことがあるかつかかりませんが、先般のやないか、かりそめにも「みたみ我れをつかまへて」  
 △「イヤ先般々々、ではどんなことを考へてみましたか」  
 ×「先づ第一に生活の改善です」  
 △「いゝところへ気がつきましたね」  
 ×「第二に物の節約です」  
 △「いゝよ、感心ですな」  
 ×「君、英米をやつつけるためには、國民が一致協力して大いに増産するほかに國民貯蓄をもつて戦力を増強してはならぬ。君、その位の」

△「三十一歳、まだ野郎には、つても御石のあり次第出られる元氣があります」  
 ×「元氣ではない、まるで貝がたやうです、君は、一年に一回子供を産むのですか」  
 △「失敬なことを云ふもな、ちやありませんよ、二年に一度しか僕の体内はお産しません」  
 ×「ハ、君が本年三十一歳で」

## 本日大婦人会

○賞状贈呈金  
 大日本國防婦人会、舊財団法人大日本聯合婦人会、舊社団法人愛國婦人会に對し、支那事變の功に依り賞状贈呈金を下賜せらるゝこととなつた處、是等三團體は既に解消し、其の會員は凡て本會に包含せられたので、右團體に對する贈呈金を一括して本會に交付せらるゝ旨の御沙汰を拜し、本年四月一日山内本會々長は陸軍省に出頭の上賞状贈呈金を拜受した。

○右贈呈金百萬圓は、事業基金として、該團體は選任貯蓄局に保證預入と爲し、其の利子収入は軍務救護費に充當することに決定せられた。

○モンペ服用方獎勵  
 防衛隊が布かれてある折柄、向都人士の間には相變らず服裝に感心出来ぬ者が大勢ある。本會々員は擧げて警戒警報中は在宅、外出共に簡袖「モンペ」眼を服用のことと登報解除中で

○會務の状況  
 本年一月末日現在で舊財団法人の會務状況を調査した處、總括して支部八、郡市支會六二、市支會内分會一七八(分)に、北支會内(分會分會七あり)、街庄分會一七八、行政區域外分會二(未結成分會一)結成すべき班數一三〇二、結成班數二、五二五、未結成班數四八七、結成班數五〇二九一、未結成班數六九〇六、會員數百六萬二千四百五人

△「それで十三人の子供さんと云ふのは、勘定が合ひませんか」  
 △「僕が二十三歳の時三つ子を二十五歳の時三つ子を二十七歳の時三つ子を二十九歳の今年三つを三つ子を、男の子四人、女の子四人、合せて十三人です」  
 ×「君の歳は何となく、多産輩だとは思つてゐたが、成ほどすばらしいですね、御家は毎日新年や萬歳やでお賑やかでせうな」  
 △「いや賑やかどころではありませんが、まあ朝の幼稚園みたやうです。僕の増産は、さうこんなもので、君は國民貯蓄とどんな具合にやつてゐますか」  
 ×「その點、僕が如くなくこのころはスツと歩かやうにしてゐます」  
 △「歩くのは結構ですが、貴方のやうに足が曲つてゐるといけませんね」  
 ×「足が曲つてゐるといふ足はまづありません」  
 △「いや、足が曲つてゐるから、」

△「ところで君は國民として此際こんなことをやらうと考へてみたことありますか」  
 ×「考へてみたことがあるかつかかりませんが、先般のやないか、かりそめにも「みたみ我れをつかまへて」  
 △「イヤ先般々々、ではどんなことを考へてみましたか」  
 ×「先づ第一に生活の改善です」  
 △「いゝところへ気がつきましたね」  
 ×「第二に物の節約です」  
 △「いゝよ、感心ですな」  
 ×「君、英米をやつつけるためには、國民が一致協力して大いに増産するほかに國民貯蓄をもつて戦力を増強してはならぬ。君、その位の」

△「三十一歳、まだ野郎には、つても御石のあり次第出られる元氣があります」  
 ×「元氣ではない、まるで貝がたやうです、君は、一年に一回子供を産むのですか」  
 △「失敬なことを云ふもな、ちやありませんよ、二年に一度しか僕の体内はお産しません」  
 ×「ハ、君が本年三十一歳で」

未入會員推定數十二萬九千四百五十一人、結成會員と見做されるべき人員は百九十九萬一千八百五十六人であるが、未結成の班組の結成方を要請中である。

○健康運動  
 五月一日から十日迄健民運動強固期間大日本婦人会としては結成紹介功勞者を表彰することとなつた。而して功勞者選出標準は本島に於て十五組以上の結成紹介をなし、其の婚家に誠心的に助長する人格者と云ふのであつた。表彰せられた功勞者は、北支會員山好美、大浦一、竹藤清治、尾辻國吉、戸村素平、眞鍋巖市各夫妻、三浦九虎次、三浦チノ氏及び松田宗治郎、田中茂八、佐藤竹太郎、門間幸造各夫妻、甚藤市郎、田中キヲ、新竹州、新竹市日向、原田宗太郎、大浦市田村阿盛夫妻、苗栗郡苗栗庄鐘澤氏夫妻、莊原家夫妻、藤原市山新造夫妻、藤原市田道夫妻、花畑池澤玉里高福園夫妻、吉野庄板東宮太郎夫妻の二十一組である。

あつて、五月八日午前十一時表彰状贈呈金一封を贈呈した。

○貯蓄強固運動  
 爲に百二十萬本島日籍會員が力を協して、昭和十八年本島國民貯蓄四億圓目標の達成を期する爲に、貯蓄強固座會を四月十四日午後一時三十分から、奉天會室で本部、北支會部、北支會支會の役員五十餘名を集の上、開催した。特に臨席せられた小幡總督府事務官は國民貯蓄完遂に對する總督府の方針、注意すべき事、貯蓄強固に就て、寺島北支會工務局長は貯蓄奉公の記載事項、實務取扱上の引例、工務局長は職員原田貯蓄銀行支那人付銀行常務理事として見たる貯蓄の状況、地方推進上見たる實際、西村生活部長、大澤宣傳部長は指導的立場にある婦人の奮起を促し、會務者の疑義解明があつて、同け日閉會完遂へ邁進の決意を固め午後四時散會した。



# 家庭の頁

## 空襲は必至

—その心構へは—

決断下の空にそなへて先般警防団が結成せられ、防備に對する強化が図られたこの秋、私達國民の一人一人に集めて萬全の心構へが、準備が出来て居るでせうか。

敵機は飛んで来る手にはいろいろありませうけれど、先づ豫想されるのは支那大陸からの數十機によるゲリラ的襲撃だと思はれます。地理的に云へば臺灣が一番可能性が大きいわけですが、しかし私達が敵機判断を自分勝手にあつたかうだときめてしまふのは非常な間違ひで敵の出し得る手の中で、一番私達に痛い手を豫想してかゝらねばなりません。要するに「空襲は必至」につきま。

いかに、そして何時でも敵機來れる構へになつて居るでせうか。支那に防空訓練の爲……にと解せられる様な申請的な水、砂や火叩き、街に出ると警報をよそに長い袂の人達、たまさかモンペを穿いてゐると思へば形式的で、半袖、サンダル、ハイヒールといった恰好なのですが果してこれで愛する日本國土を敵の爆撃の洗禮から、うけとめ得られませうか。

空襲は最初の五分間で定まると云はれてをりますから、實戦に即應した訓練が肝要だと思ひます。高射砲が鳴りだしたら飛行機がとび出したら待避する。あたりに弾が落ちたらとび出して消火する、となつてゐるので、毎日でなくとも、防空にそなへての訓練(待避、消火、止血)を隣組で行つたら、そして梯子に乗るのも訓練練習だけでなく、落ちない訓練習する心掛けが必要だと思ひます。病人を擔架で運ぶ様な事は、誰でもいふと出来ぬ出来ぬので、誰でもいふと出来ぬ出来ぬといふ場合の處置等を徹底させた方がよいぢやないかと思ひます。それから食糧等も警報が出たら、二分間の食糧位の用意は是非必要です。夜中から明けかけての空襲が多いと思ひますが、翌朝の分まで前日に焚いておにぎりしておきます。あれやこれや考へて居りますと、まだ「家庭防空」の心構へや準備に隙があるのでは無いですか。

一 キロ、二キロの機銃弾でさへ、十米、二十米の直徑で飛散します。最近米國あたりでは、小型機銃弾の効果うすを知つて、二十キロ、五十キロの機銃弾や油脂弾を準備してをり、私達の頭を落ちて来るのは二十キロ、五十キロの機銃弾、爆弾とを豫想せねばなりません。それに爆撃の被害より恐しいのは、其の際に於ける火事と、爆撃による混乱だと云はれてをります。爆撃後に於ける交通混雑をなくする爲の訓練を徹底化し、それと同時に交通道程が生れて来なければと思ひます。

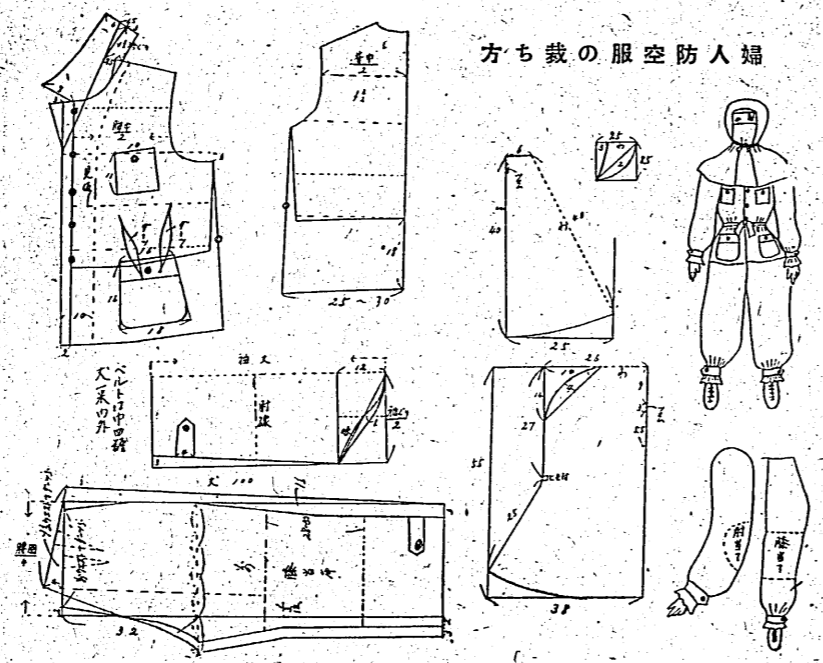
生徒は休校することになつてをりますが、この様な際隣組で子供達の待避訓練とか、實際の時、大抵隣組で「防空隊」がありまが、もしそれが破壊を受けた場合、待避者を何處に避難をつけ待避させるか、それも判然とさしておかねば、そしてつと子供達の心の底にはつきり現れ、状態をしまさせる様な努力が必要だと存じます。

い、ろく「警報下」に於ける強靱な事をあつたときも無く並べましたが、要は私達が日本人たる自覚の上立ち、防空に對する知識を、つきり呑み込み、どの様な最悪な場面にぶつかつても、洗滌果敢に事にあたる事だと思ひます。

### 奉天公報

(桔梗俱樂部)  
單位員二百七十一  
團員一萬五千を數  
ふる壯年團本部で  
は各單位團との連  
絡緊密化を図るべ  
く種々考慮中のと  
ころ、その方法を  
誌報を發行することとし、  
創刊號を去る四月二十七日發行  
爾後毎月十五日に發行の予定。

## 方ち裁の服空防人婦



心地よ、感觸、素晴らしい切味!

スプリング (双片) "PRINCE" W44571 AUTO BLADE

リンデン (双片) LIN & DEN EXTRA FINE STEEL WARRANTED

所作製トーフ丸の日  
五一ノ一通橋寺堂安福用市販大  
—玉崎・京東—御工

### 文化部

△四月二十五日 臺灣文學界公會落成  
 臺灣文學界公會落成に  
 關する打合せを本會  
 會議室に於て開催  
 △四月二十九日 臺灣文學界公會落成式  
 舉行  
 △五月一日 臺灣美術界公會落成  
 式舉行  
 △五月五日 臺灣美術界公會結  
 成式舉行

△四月十六日 全島  
 支部會議開催に際し  
 支部生活部と州衛生  
 課の聯絡關係の調整  
 健康移動展示會の内  
 容等に付坂本書記上  
 り種々説明した  
 △五月一日 健康運動強調期間  
 開始

△四月二十一日 午  
 後三時より本部會議  
 室に於て臺民團體操  
 定に關する座談會を  
 開催 宇佐見市、  
 田島(一中)、宮村(二  
 中)、松島(幸)の諸氏出席し同  
 時三十分散會した。尚同體操  
 は五月三日の打合せにてその制  
 定をみた  
 △五月四日 府農務課主催の下  
 午九時より折南農藝戰士訓  
 練生の南方派遣に關する件に付

き第一、第四、第五訓練所の主  
 事出席の上種々打合せを付した

### 奉公會人事

(自四月十五日披分)  
 (至五月十四日披分)  
 (臺灣之部)  
 ○本部  
 四一五 選挙委員會議員  
 同 石田乙五郎  
 三、三二 主事(生活部) 中村八十一  
 四、二六 海軍訓練隊教官 櫻井又衛門  
 四、三〇 書記(總務部) 政 朝  
 五、一〇 參事(經濟部) 天 岩 旭  
 同 (同) 天 岩 旭  
 同 (同) 野間種一郎  
 ○地方支部委員  
 四、二〇 新竹州支部經濟部長 曾我與三郎  
 三、三一 臺南州支部附 山時守正  
 ○臨時勤務員本部  
 四、二三 臨時勤務員本部 高見嘉夫  
 五、一〇 同 天 岩 旭  
 ○商業公會中央本部  
 五、一〇 商業公會中央本部 理事 加藤重喜  
 同 天 岩 旭

所 行 發	皇民奉公會中央本部 台北市文筆町二二三 電話四三三六六番 電話九七二一三番
定 一册	十五錢(送)
半年	九十錢(送)
一年	一圓八十錢(送)
價	月刊 四月十六日發行 四月十八日發行 四月廿一日發行 五月十二日發行
發行人	大澤 貞吉
編輯人	須 川 首
印刷	臺灣日日新報社 台北市文筆町一八 電話九七二一三番
發售	日本出版配給株 式會社臺灣支店 振替號七九九番

毛髮の  
健康美を  
創る  
整髮料

素養の髮毛  
油香本日

号津石・阪大

朝日海上火災

戰爭保險取扱指定會社

目録兼覽  
海上保險  
火災保險  
運送保險

阪大店本  
雄 忠 崎 岡 長 社 取 理  
雄 常 井 坂 長 社 取 理

一五町山樺市北台 所張出北台

三和銀行

雄高・南台・北台

所々餘十三百二圖全・所張出店支 市阪大 店本

貯めやう  
勝たう

**230億は攻略はげ**

**第一徴兵**

本社 東京 銀座  
支店 北本市 京町

御集会に御訪問に御買物は  
明日の御活動に備へて...

高向優美  
運耐耐久  
価格低廉

専賣特許小髷印刷袋及茶袋品特色

● 高向優美  
● 運耐耐久  
● 価格低廉

大日本印刷株式会社  
印刷部 印刷課 印刷課長 佐藤 正一  
〒100 東京都千代田区千代田 2-1-1

**化膿症**

**テラポル錠**

創傷 潰瘍 丹毒 膿瘍 疔瘡 腫毒 瘰癧 癰疽 疔瘡 腫毒 瘰癧 癰疽

● 内服により深く病巣に透過し、各種化膿菌の發育を阻止して病状の悪化を防ぎつゝ最も短期間に治癒せしむる高純度の「第一」ニスル「テラポル」錠のその効果は多数醫家の實驗報告により立證せらる

大・京東  
第一製藥株式會社

4-77

昭和十八年十月十五日發行  
（第二卷第六號）  
毎月一回一日發行  
◎一冊十五錢

